岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第１学年　**「れんげまつり　だいすき」**

１　主題名　ぼくのまち　わたしのまち

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｃ　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。」である。自分が生まれ育った郷土はその後の人生を送る上で心のよりどころとなるものであり、生きる上での精神的な支えとなるものである。郷土での様々な体験など積極的で主体的な関わりを通して、郷土を愛する心を育んでいく必要がある。

そこで、自分が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり、そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで感じる「楽しかった。」という思いを大切にして、郷土への愛着を深め、親しみをもって生活していこうとする態度を育てたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、近くの公園で遊んだり自然に親しんだりする中で、「楽しかった。」「うれしいな。」という気持ちになったことが誰しもある。また、地域の中での行事や祭りに参加し、みこしを担いだり、だんじりに乗ったりして、地域の人々との楽しい触れ合いも体験している。

しかし、自分の住んでいる地域のよさや、地域の人々が地域や地域の子どもを愛し、支えてくださっているということには気付いていないことが多い。

このような児童が、自分の体験を思い起こすことで、地域で活動する楽しさやよさに気付き、自分たちの地域での生活を、あたたかく見守り支えてくださっている地域の人々への親しみをもつことができるようにしたい。そして、郷土への愛着が一層深まっていくようにしていきたい。

(3) 教材について

「れんげまつり」は「昔のようなれんげ畑をもう一度復活させたい。」という地域の人々の熱い思いから始まった行事である。特に、町の青年団や市の商工観光課を中心にれんげの種まきや祭りの準備が進められてきた。主人公の両親もまた、この「れんげまつり」に一役買ってきた人たちである。

家族で「れんげまつり」にやってきた主人公は、五重の塔の周りのきれいなれんげ畑を見て、大喜びである。そして、れんげでたっぷり遊んだ主人公が、両親から「れんげまつり」への思いを聞き、友達にもれんげでいっぱいの町のすてきなところを教えたい気持ちになったという話である。

中心場面として、友達にも教えたいと思う場面を取り上げ、自分の体験と重ねて考えることで、れんげまつりのすてきなところや地域の人々の気持ちに気付くようにする。そして、「れんげまつり」が大好きになり、この町をすてきだなと思う主人公の気持ちに目を向け、自分たちの住んでいる町に親しみをもち、大切にしようとする態度を養いたい。

◇板書例

きれい　あそびたいな
れんげまつり　だいすき

めあて
れんげまつりのすてきなところを
みつけよう。

れんげばたけであそんでいるとき

・おはながいっぱい
・きれいだな
・なにをしてあそぼうかな

おとうさんやおかあさんから
はなしをきいたとき

・おとうさんやおかあさんも
がんばったんだな
・ちいきの人のおかげで
たのしくあそべてうれしい
・ありがとうをいいたい

ともだちにおしえたいこと

・れんげまつりはたのしいよ
・れんげでいっぱいのまちにする
ためにちいきの人ががんばった
んだよ
・こんどいっしょにいこうよ

◇れんげまつりの　すてきなところは、
れんげばたけと　それをつくった
ひとたちだよ。

○ちいきのすてきなところ

◇参考

れんげまつり…総社市上林の吉備路れんげまつり。備中国分寺の周辺で行われる。

3　ねらい

「れんげまつり」のすてきなところを考える中で、れんげ畑の楽しさや地域の人々の思いを知って、自分たちの町への愛着が深まったことに気付き、自分も住んでいる地域や地域の人々に親しみをもとうとする態度を養う。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　れんげ畑について話し合う。	○　れんげ畑の写真を見てどんな感じがしますか。	・れんげ畑の写真を見てれんげの美しさや楽しい経験を想起した後れんげまつりを紹介し、めあてを確認する。
「れんげまつり」のすてきなところをみつけよう。		
2　「れんげまつりだいすき」を読んで話し合う。	○　れんげ畑で遊んでいるのんちゃんはどんなことを考えているでしょう。 ・わあ、お花がいっぱいだ。きれいだな。 ・何をして遊ぼうかな。 ○　お父さんやお母さんから「れんげ畑が前はただの田んぼだった」と聞いて、のんちゃんはどんなことを思ったでしょう。 ・ただの田んぼだったなんて信じられない。 ・お父さんやお母さんもがんばったんだな。 ・町の人みんなのおかげでこんなにきれいなんだ。楽しく遊べてうれしいな。 ◎　のんちゃんは友達にどんなことを教えたいのでしょう。 ・「れんげまつり」に行ったら、れんげがとってもきれいだったよ。 ・花束とかんむりを作って楽しかったよ。 ・れんげ畑でお弁当を食べたらおいしかったよ。 ・今度一緒に行こうよ。 ・れんげでいっぱいの町にするために、町のみんなががんばってくれたからこんなに楽しくてきれいなんだよ。 ・楽しい「れんげまつり」があるこの町ってすてきだな。	・場面絵を見ながら話をさせることでわくわくする楽しそうな様子に共感できるようにする。 ・両親の言葉を聞いて、ただの田んぼだった所が、地域の人々のがんばりで、今はこんなに楽しくすてきな所になっていることへの主人公の驚きに共感できるようにする。 ・まず、ペアで話をし、れんげ畑で遊んで楽しかった思いや今度一緒に来たいという気持ちを語らせる。その後、教師が相手になり役割演技をする中で考えの根拠を問い返し、体験と重ねて、れんげ畑の楽しさやれんげ畑の世話をしてきた地域の人をすてきだと思う気持ちに気付かせる。 ・主人公が「この町ってすてきだな」と思ったことを尋ね、れんげ畑がすてきだと思う気持ちから、「れんげまつり」のあるこの町をすてきだと思うようになったことに気付かせる。
「れんげまつり」のすてきなところは、れんげばたけとそれをつくったひとたちだよ。こんなれんげまつりのあるまちってすてきだな。		
3　自分たちが住んでいるところのよさを話し合う。 4　地域のすてきなところの話を聞く。	○　みなさんが住んでいる町で、友達に教えてあげたいようなすてきなところがありますか。 ・○○公園で、虫がたくさん捕れるよ。 ・いつも登下校のときに見守ってくれるおじさんがいるよ。 ○　みんなの住んでいる町にもすてきなところがたくさんありますね。	・生活科の学習や行事の写真を示し、自分たちの地域を思い起こすようにする。自分との関わりで、地域や地域の人々のすてきなところに気付き、地域が大好きという気持ちをもつことができるようにする。 ・地域のすてきなところに気付くことができるような話をすることで、地域に親しみ、好きになるように意欲を高める。
じぶんたちのまちにもすてきなところがあるよ。 もっとすてきなところをみつけたいな。		
評価の観点	・「れんげまつり」のすてきなところやそれを支える地域の人々の思いに気付くことができたか。 ・自分の地域のすてきなところに気付き、地域に親しみをもとうとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

生活科の学習や地域の祭りなどの行事と関連させながら、地域のよさを見付け、地域に親しみをもつことができるようにする。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第１学年　**「てんまで　のびろ　－良寛－」**

１　主題名　生き物にやさしく

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｄ　自然愛護「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。」である。古来日本人は、自然から受ける様々な恩恵に感謝し、自然との調和を図りながら生活を営んできた。自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、地球全体の環境の悪化が懸念され、持続可能な社会の実現が求められている中で、特に身に付けなければならないものである。

そこで、動植物や自然と接した体験をもとに、それらに親しみを感じ、自分たちを取り巻く自然環境を大切にしたり、動植物を愛護したりしようとする態度を養っていきたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、動植物に対する興味や関心が強い。草花や野菜を育てたり、小動物の世話をしたりする経験のある児童がほとんどである。しかし、一方で、水やりや草抜きなどの世話を忘れたり、飼育に飽きると世話を投げ出したりする姿が見られる。これは、動植物の生命や世話の重要さにまでは目が向いていないためだと考える。

そこで、自然や動植物と触れ合う活動や体験を通して、自然や動植物のもつ不思議さ、生命の力、共に生きていることのいとおしさなどを実際に感じ、自然や動植物を大事に守り育てようとすることのできる児童を育てたい。

(3) 教材について

この教材は、玉島の円通寺で十年あまり修行した僧、良寛の逸話である。住まいの縁の下に頭を出した竹の子が日一日と伸びて、とうとう床板につかえそうになった。これに気付いた良寛は、床板に穴を開けた。竹の子はどんどん伸び、屋根につかえそうになった。今度は、良寛は屋根に穴を開け、天高く伸びていく竹の子の成長を喜んだという内容である。

竹の子のために、床板や軒先の板をはがすことは、考えにくいことであるが、竹の子の成長を見守り、大事に育てながら、共に生活しようとする良寛の考えに共感できるようにすることにより、自分たちも動植物を大事にしながら、自然を大切に守っていこうとする気持ちを育てたい。

◇板書例

てんまで　のびろ　－りょうかん－

めあて
どうしてたけのこをたいせつにしたのだろう。

ゆかにとどきそうなたけのこをみたとき

・かわいいなあ。
・でもきらないといけないな。
・なんとかおおきくしたいな…。

やねにとどきそうになったとき

・たけのこをきろうかな？
・やねをきろうかな？
・こまったな　どうしよう？
・たけのこも　いきている。
・もっともっと　たけのこが
おおきくなってほしい！
・おおきくなるとうれしいな。
・ともだちみたいにおもって
いるよ

あおいそらにのびた　たけのこをみて

・きらなくてよかった。
・たけのこも　よろこんでいるな。
・どんどん　のびろ　てんまで
のびろ。

◇たけのこが　おおきくそだってほしいな。
いきものにやさしくし、だいじにしたいな。

○しょくぶつや　どうぶつに
やさしくできたこと

◇参考

良寛（1757～1831 年）。現在の新潟県出雲崎町に生まれる。光照寺玄乗和尚の弟子となり良寛と名乗る。22 歳のとき、倉敷市玉島の円通寺国仙和尚の下で修行に入る。75 歳で死去。

参考文献　山本和夫「良寛さま　子どもが大すきな、やさしい坊さん」偕成社

3　ねらい

良寛はどうしてこんなに竹の子を大切にしたのかを考える中で、動植物の生命に親しみを感じ、優しく大切にすることの素晴らしさに気付き、動植物を大切に守り育てようとする態度を養う。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　「てんまでのびろ　－良寛－」を読んでめあてをつかむ。	○　良寛さんの行動で「あれ？」と思ったことはありましたか。 ・どうして床の板をはがすのだろう。 ・屋根まで切って竹の子を伸ばしたのが不思議だな。 どうしてたけのこをたいせつにしたのだろう。	・良寛について紹介し、資料への導入を図る。 ・絵話の後の児童の率直な感想から、良寛の行動の意外性を確認し、「どうしてそこまで竹の子を大切にしたか」というめあてをつかませる。
2　良寛さんの気持ちを考える。	○　床に届きそうな竹の子を見て、良寛さんはどんなことを考えたでしょう。 ・かわいいなぁ。でも、切らないといけないな。 ・なんとか大きくしたいなぁ。 ◎　屋根に届きそうになった竹の子を見て、良寛さんはどんなことを考えたでしょう。 ・竹の子を切ろうかなぁ。 ・屋根を切って竹の子を伸ばそうかなぁ。 ・困ったなぁ。どうしよう。 ・竹の子は大きくなろうとがんばっているな。 ・もっともっと大きくなってね。 ・竹の子が大きくなるのを見るとうれしいな。 ・友達みたいに思っているよ。大事にしたいな。 ○　青い空に伸びた竹の子を見て、良寛さんはどんなことを思ったでしょう。 ・途中で切らなくてよかったな。 ・竹の子も喜んでいるな。 ・どんどん伸びて、大きく育ってほしい。 たけのこが大きくそだってほしいな。 いきものにやさしくし、だいじにしたいな。	・どうしたらよいか迷う良寛の気持ちを共感的に捉えることができるようにする。 ・役割演技で教師が演じる竹の子に向かって呼びかけをさせることにより、良寛の竹の子に対する優しさを実感できるようにする。 ・「どうして大切にしてくれるの」と教師が問いかけ、竹の子を友達のように思い、その成長を願う良寛の気持ちに気付くことができるようにする。 ・「てんまでのびろ」に着目させ、空高く伸びていっている竹の子の成長を喜び、とても満足している良寛の気持ちに気付くことができるようにする。
3　今までの自分を振り返る。	○　みんなはどんなものを育てていますか。 ○　植物や動物にやさしくできたことがありますか。 ・あさがおの芽はかわいかった。毎日水やりをしたよ。 ・子犬をだっこしたよ。あたたかかったよ。	・動植物の生命に親しみを感じ、優しく接していた自分を見付けることができるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　植物や動物を大切にしている人を見付けました。 これからもしょくぶつやどうぶつを もっともっとたいせつにしていきたいな。	・自然を大事に守り育てようとしているくらし方について事例を紹介することで、意欲を高める。
評価の観点	・友達のように自然や動植物に対して親しみを感じ、自然や動植物に優しくし大切にすることのすばらしさに気付くことができたか。 ・動植物に優しい心で接し、大切に守り育てていこうとする意欲をもつことができたか。	

5　他教科等との関連

生活科の学習や日常の生活、飼育栽培活動の中で、動植物との触れ合いと関連させながら、動植物に親しみをもち、守り育てていこうとすることができるようにする。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第１学年　**「なみだで　かいた　ねずみの　え　－雪舟－」**

１　関連的な道徳のテーマ　ぼく、わたしを見つけよう！

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、生活科の「じぶんたんけん１」「じぶんたんけん２」の学習などと関連を図りながら学習を進めることで、自分のことや自分らしさについて考え、自分らしさや自分のよさを見付けた喜びを感じ、自分を大切にしていこうとする態度を養う。

３　構想図（１月上旬～１月下旬）

【日々のくらし】　【道徳科】　【各教科等】　【児童の意識】

朝の会
「世界中でたった一人の自分」について先生の話を聞く。
支援１

・世界中で自分はたった一人しかいないんだな。自分について考えたいな。

生活科　じぶんたんけん１
「じぶんたんけんカード１」に自分のことを一つ一つ記入する。
支援２

・自分の名前、顔、好きな食べ物、好きなこと、いっぱい見付けて楽しいな。
・もっと自分について知りたいな。

「じぶんたんけんカード１」に見付けたことを書き加える。

道徳科
主題名　自分らしさってなあに？
内容項目　A　個性伸長
教材名　「なみだで　かいた　ねずみの　え　－雪舟－」
ねらい　自分らしさについて考える中で、自分らしさや自分のよさに気付き、もっと自分のよさを見付けていこうとする態度を養う。
支援３

・自分らしさや自分のよさに気付くことって、すてきだな。
・もっと自分のよさを見つけていきたいな。

日々のくらし・課外　じぶんたんけん２
友達や家族にもインタビューしながら、「じぶんたんけんカード２」に自分だけのすてきなことを記入する。
支援４

・友達やおうちの人に聞いて、自分のよさをいっぱい見付けたよ。
・でも、苦手なこともあるんだな。

学級活動　じぶんたんけんはっぴょう
「じぶんたんけんカード１・２」に書きためてきたものをもとに、自分らしさについて友達や家の人に発表する。
支援５

・自分らしさがいっぱい見付かってうれしいな。
・たった一人の自分を大切にしていきたいな。
・もっとすてきな自分になりたいな。

４　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

絵本『ぼくだけのこと』（偕成社）をもとに、「自分は世界でたった一人しかいないんだよ。」と話し、自分自身のことに目を向け、「自分についていろいろと考えていきたい。」という意識をもたせ、道徳的価値に対する構えに高めるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

「自分について考えていきたい。」という意識をもったところで、生活科「じぶんのことをふりかえろう」と関連させ、「じぶんたんけん１」（ワークシート１）を示し、取り組ませる。まず、カードに自分の名前、自分の顔、好きな食べ物、好きな勉強など、好きなことを記入させる。カードに記入したことを友達と比べ合うことで、少しずつ自分のことを意識させ、「絵本のように、もっと『ぼくだけのこと』を見つけ、自分のことをもっと知りたいな。」という課題意識を高め、日々のくらしの中でも、「もっと自分らしさを見付けたい。」と思うようになったところで道徳科の授業に入るようにする。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では「じぶんたんけん１」の活動を思い出し、自分のことをカードに書いているときの気持ちを話し合い、「もっと自分らしさについて考えていきたい。」という課題意識を想起できるようにする。

中心場面として、和尚さんに「そんなに好きなら絵の勉強をしてみるか。」と言われ、黙って考えた後で雪舟が「はい。」と答えた場面を取り上げる。そのときの雪舟の気持ちをワークシートに書き、教師が問い返すことで、これまで自分らしさについて考えてきたときの自分の気持ちを重ねながら、雪舟の心の中にある疑問、不安、希望、喜びなどを語らせ多面的・多角的な考えを深めるようにする。そして、お経の勉強に集中できず、絵に夢中になってしまい、自分に自信がもてなかった雪舟が、和尚さんの言葉から、「絵が大好きなことは自分らしさなのかもしれない。」と、だんだんと自分のよさに気付いていく雪舟の喜びに共感することができるようにする。

展開後段では、前段で考えたことをもとに、自分のよさについて考え、「自分のよさをもっと見付けていきたいな。」「もっと自分について知りたいな。」という意欲をもつことができるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で抱いた「自分のよさをもっと見付けていきたい。」という思いを受けて、「じぶんたんけん２」の活動に取り組む。「じぶんたんけん１」で見付からなかった自分について、日々のくらしや家庭学習の中で、友達や家族にもインタビューしながら、自分探検をし、見付けた自分のよさをどんどん書き加えるようにする。教師が「あなたには、～なすてきなところがあるよ。」と個別に声をかけることで、自信をもってカードに記入できるように支援する。そして、気付いたら、苦手なことも含め、たくさん自分らしさを見付けたことを喜び、自分らしさを実感することができるようにする。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

「じぶんたんけんはっぴょう会」をすることで、これまで気付いていなかった自分らしさについて、あらためて意識できるようにする。特に、自分のよさを教師や友達に認められることで、自分のよさに気付いたうれしさを実感できるようにしたい。そして、家族にも、たくさん見付けた自分らしさについて話をさせ、ほめられたり励まされたりすることで、自分らしさを意識できたことをうれしく感じ、児童一人一人が自分を大切にしていきたいという思いをもつことができるようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　自分らしさって、なあに？

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心とする内容項目は、A 個性の伸長「自分の特徴に気付くこと。」である。「個性」とは、他の人と異なる個人特有の特徴や性格である。他の人と異なることを否定的に捉えるのではなく、「自分らしさ」として捉えるようにしたい。また、「個性の伸長」とは、自分の特徴に気付き、長所を伸ばし、短所を補うことで調和のとれた自己形成をしていくことである。児童が自分らしい生き方について考えを深め、将来にわたって自己実現を果たせるようにするために、重視したい内容である。しかし、１年生で自分を意識することや自分の特徴に気付くことは、それほど簡単なことではない。

そこで、まず、自分自身に目を向けさせ、自分の特徴や自分のよさを意識し、もっと自分のよさを見付けていこうとする態度を養っていきたい。

②児童の実態について

この時期の児童にとって、自分を客観視することはまだまだ難しい。しかし、ほめられたりしかられたりすることで、自分像をおぼろげながら描いている。そこで、関連的な学習の中で、自分らしさに目を向け、自らを探検する気持ちで自分を見つめる活動をしてきた。この活動を通して、児童は、自分を知ることに興味をもってきている。

本時では、自分の得意なことを中心に自分を見つめることで、自分らしさの中身を広げていきたい。そして、自分のよさに気付き、もっと自分のよさを見付けていこうとする態度を養いたい。

③教材について

寺で修行をしていた幼い雪舟は、絵を描くことが大好きで、つい仏門の修行がおろそかになってしまう。見かねて雪舟を柱に縛りつけた和尚さんではあるが、反省中の雪舟が涙と足の指で描いたねずみの絵のすばらしさに心を打たれ、雪舟に絵の道を勧める。雪舟は、和尚さんの言葉によって自分の長所に気付くのであった。和尚さんに絵の道を勧められたときの雪舟の心の中を考えることで、低学年の児童も自分らしさやよさを意識することができると考える。

◇板書例

なみだで　かいた　ねずみのえ　－雪舟（せっしゅう）－

めあて　「じぶんらしさ」についてかんがえよう。

雪舟（せっしゅう）

えをかくことがだいすき

はしらに　しばりつけられたとき

・また、おこられてしまった。
・ちゃんと　しゅぎょうをしないと　いけなかったな。
・どうして　むちゅうで　えを　かいてしまうのだろう。

肖像画

「そんなにすきなら　えのべんきょうをしてみるか。」

・ほんとうにえのべんきょうをしてもいいのかな。
・まえは　えをかくと　しかられたのに…。
・これからはずっとえがかけてうれしいな。
・おしょうさんが　ほめてくれた。うれしいな。

雪舟と
和尚さん
の絵

ずっと　えを　かきつづけてきて

・おしょうさんに　とくいなことをみつけてもらって
　よかったな。
・ぼくはやっぱり　えがすきなんだな。
・えをかくことがとくいなことは
　じぶんのよいところなんだな。

天橋立図

◇じぶんらしさや　じぶんのよさが　わかることは
　すてきなことだな。

○じぶんのよさについてかんがえたこと

◇参考

雪舟（1420～1506 年 ※諸説）総社市に生まれ、幼少時、井山宝福寺で仏門に入る。京都の相国寺で画家の修行を重ねた後、周防（山口県）大内氏の庇護を受けて遣明使として中国に渡り、水墨画の画法を学んだ。帰国後は日本独自の水墨画を確立し、その作風は国内･海外で、現在でも高く評価されている。

⑶ ねらい

自分らしさについて考える中で、自分らしさや自分のよさに気付き、もっと自分のよさを見つけていこうとする態度を養う。

⑷ 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　「じぶんたんけん１」で感じたことを話し合う。	○　「じぶんたんけん１」の学習をして、どうでしたか。 ・自分のことがいろいろ分かって、楽しかった。 ・もっと、自分のことを見付けていきたいな。 「じぶんらしさ」についてかんがえよう。	・「じぶんたんけん１」の活動を振り返り、「もっと自分のことを知りたい」という思いをもたせ、「自分らしさについて考えていきたい」という課題意識をもつことができるようにする。
2　教材「なみだで　かいた　ねずみの　え　－雪舟－」を読んで話し合う。	○　柱に縛りつけられた雪舟は、どんなことを思っていたのでしょう。 ・また、おこられてしまった。ごめんなさい。 ・ちゃんと修行をしないといけなかったな。 ・どうして絵を描き出すと夢中になってしまうのかな。 ◎　「そんなに好きなら、絵の勉強をしてみるか」と聞かれ、しばらく考え、「はい」と答えた雪舟は、どんなことを思っていたのでしょう。 ・修行をやめて、本当に絵の勉強をしていいのかな。 ・前は絵を描くと叱られていたのに、どうしてだろう。 ・よかった。もう、叱られないで、ずっと絵が描ける。 ・他の人とは違っていたかもしれないけど、自分は絵を描くことがずっと好きなんだ。 ○　絵の勉強を続けて、たくさん絵を描くようになった雪舟は、どんなことを思っていたでしょう。 ・あの時、和尚さんに得意なことを見付けてもらってよかったな。 ・ぼくはやっぱり絵が大好きなんだな。 ・絵を描くことが得意なことは自分のよいところなんだな。 じぶんらしさやじぶんのよさがわかることはすてきだな。	・しばりつけられたときの気持ちを問い、絵を描くことはよくないことだと考えて自信をなくしている雪舟の気持ちに気付かせる。 ・ワークシートに雪舟の気持ちを書き、教師の問い返しにより、雪舟の心の中にある疑問、不安、喜び、希望などを考えさせ、雪舟が「絵が大好きなことは自分らしさなのかもしれない」と気付き始めたことを捉えさせる。 ・雪舟がだんだんと自分のよさに気付き、喜びを感じていることに気付かせる。
3　自分のよさについて考える。	○　あなたの「じぶんのよさ」を考えてみましょう。 ・○○が好きだから、自分のよさになるかもしれない。 ・まだ、気付いていない自分のよさがあるかもしれないな。 ・友達やお家の人に、私のよさを聞いてみたいな。	・児童の意見を受容的に認めることで、自分のよさに気付くことの喜びを実感できるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　先生も自分のよさに気付いたときのことを話します。 もっとじぶんのよさをみつけていきたいな。 もっとじぶんについてしりたいな。	・教師が自分のよさに気付いた経験について話をし、「自分のよさをもっと見付けていきたい」という意欲を高め、「じぶんたんけん２」の活動につなげる。
評価の観点	・自分らしさや自分のよさを意識することのうれしさや喜びに気付くことができたか。 ・もっと自分のよさを見付けていきたいという意欲を高めることができたか。	

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第２学年　**「町の　たからもの　金ボタル」**

１　関連的な道徳の学習のテーマ　町のたからものを見つけよう

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、生活科の「まちたんけん」や「町のすてきなところを紹介する新聞づくり」「地域のお宝発表会」の活動と関連を図りながら学習を進めることで、地域の宝物を見付け、それを守っている人の思いを知った上で、自分たちも町の宝物を大切にしていこうとする態度を養う。

３　構想図（６月下旬～７月上旬）

【日々のくらし】　【道徳科】　【各教科等】　【児童の意識】

生活科　「まちたんけん」を振り返ろう
振り返りの後、「わたしたちの道徳」P.150～151 を見て話し合い、P.152～153 の新聞に見付けたことを記入する。
支援１

・自分たちの町には、いろいろなものがあったな。

帰りの会　町のすてきなところを紹介しよう
新聞に記入したことを紹介し合う。　支援２

・自分たちの町にはずいぶんたくさんすてきな場所やものがあるな。

道徳科
主題名　町のたからもの
内容項目　C　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
教材名　「町の　たからもの　金ボタル」
ねらい　金ボタルが町の宝物だと思われるわけを考える中で、宝物のようにして町の人たちがみんなで大切に守っていることに気付き、自分の住んでいる地域に親しみをもって生活しようとする態度を養う。　支援３

・宝物のようにして町の人たちが大切に守っているんだな。
・宝物のような場所や人をもっと見付けたいな。自分も地域の宝物を大切にしたいな。

帰りの会等　「地域のお宝の発表会」をしよう
地域の人々の思いに目を向け、宝物にしたいとっておきの場所やもの、それが宝物だと考えた理由を付箋に書き、集めて「お宝マップ」を作り、帰りの会で自分たちの発見したお宝の発表会をする。　支援４

・やっぱり自分たちの町にも町の人たちが大切にしている宝物があるんだな。

帰りの会　「町のたからものを見つけよう」を振り返ろう
わたしたちの道徳の新聞やみんなで集めた地域のお宝マップを参考に、学習を振り返り、感想を紹介し合う。
支援５

・この町が大好きになってきたよ。町の宝物を大切にしたいな。

４　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

生活科の学習「まちたんけん」を振り返り、自分たちの町にはいろんな場所やものがあったことを思い出した後、「わたしたちの道徳」 P.150～151 を読み、「地域の施設」「地域で暮らす人々」「自然」「自分を支え、見守ってくれる人々」の順に、自分たちの「まちたんけん」と比べながら、「自分たちの町と同じだね。」「自分たちの町には、もっと違うものもあったね。」などと感想を出し合う。自分たちの町への意識を高めたところで、「わたしたちの道徳」 P.152～153 を開き、あなたの町のすてきなところを紹介する新聞づくりをしてみよう。」と呼びかけ、新聞づくりをすることで、道徳的価値に対する構えが高まるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

「わたしたちの道徳」 P.152～153 の新聞に記入した、自分で見付けた町のすてきなところを帰りの会等で紹介し合い、友達の発表から探検では見付けられなかった場所やものにも気付き、「自分たちの町にはずいぶんたくさんすてきな場所やものがあるんだな。」という意識をもつことができるようにする。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、町探検や新聞づくりを通して、町の中にすてきなところがたくさん見付かったことを話題にし、その意識と金ボタルの写真や教材の題名をつなぎ、「金ボタルがどうしてこの町のたからものなのか」というめあてへと導くようにする。

展開では、金ボタルを守っている人の話を聞いたあと、再び金ボタルを見に行った場面を中心場面として取り上げる。役割演技を通して宝物のようにかがやく金ボタルをもう一度見たときの、主人公たくやの気持ちの変化を考えることにより、金ボタルは多くの人に宝物のようにして大切に守られているということを知ったから、前見たときよりも余計にきれいに光って見えたということに気付くことができるようにする。その際、自分も宝物を大切にしたいと思うようになったたくやの気持ちを感じ取る中で、それまでに抱いていた地域をすてきだと思う気持ちを自分との関わりで語ることができるようにする。その上で、自分たちの町にある場所やものへの、町の人々の関わり方を思い起こさせることにより、自分たちの町にも、町の宝物を大切にしている人がたくさんいることに気付くことができるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で「自分たちの町にも、町の人たちが大切にしている○○な宝物があるな。もっと見付けたい。」という意欲が高まったところで、「お宝マップづくり」に取り組む。地域の人々の思いに目を向け、自分で見付けた町の宝物になりそうな場所やもの、それが宝物だと思う理由を、随時付箋に記入する。学級で作った「お宝マップ」に各自で書いた付箋を貼っていくことで、たくさんの人が大切にしている場所やものが地域のお宝として意識できるようにする。そして、帰りの会等を使って、少しずつエリアごとに「地域のお宝発表会」をし、自分たちの町にも宝物がたくさんあり、それを地域の人が大切に守っていることに気付かせ、道徳科で捉えたことを確かにすることができるようにする。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

「わたしたちの道徳」で記入した新聞やみんなで集めた地域のお宝マップを参考に学習を振り返り、感想を書く。各自が書いた感想を発表し合うことで、町の宝物のよさや町の人の関わりに気付いた自分に満足できるとともに、自分の町の宝物を大切にしていきたいという意欲をもてるようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　町のたからもの

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心とする内容項目は、C　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。」である。自分の生まれ育った郷土には、祭りや自然環境など長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術などがある。郷土は自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的支えとなるものである。これら郷土との主体的な関わりを通して、郷土を愛する心を育て、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。

そこで、身近な地域の行事や自然環境、文化などに直接触れる機会を増やし、そこに携わる人々の努力や苦労などにも目を向け、自分が住んでいる郷土に親しみをもち、生活しようとする態度を育てたいと考える。

②児童の実態について

この時期の児童は、毎日の暮らしの中で地域の自然や文化に触れ、それをまるごと受け入れ、なじんでいる。そして、自分が住んでいる地域の自然や文化のよさに目を向けている児童が多い。しかし、それを大切に守っている人の存在に気付いている児童は少ない。

そこで、生活科の「まちたんけん」と関連を図りながら、道徳の学習を進めることで、自分たちの町にはずいぶんたくさんすてきな場所やものがあるんだなという意識をもたせる。そして、本時で、多くの人々が地域の自然や文化を守るために関わっていることに気付かせ、自分が住んでいる地域への親しみを深め、生活していくことができるようにしていきたい。

③教材について

本教材は、たくやという男の子が金ボタルを初めて見たことや、それを守ろうと努力しているおじさんの話をきっかけに、地域の人が大切に守っているということに気付くという内容である。金ボタルを見たときや、おじさんの話を聞いたあと、再び金ボタルを見に行った時のたくやの気持ちに焦点を当て、自分の住んでいる地域に目を向け、地域の宝物を大切に守っている人の存在に気付くことができるようにしたい。

◇板書例

町にはたくさんすてきなところがあるな。

町のたからもの　金ボタル

めあて
どうして金ボタルがこの町のたからものなのだろう。

金ボタルの写真

はじめて金ボタルを見たとき
・キラキラ光って、きれいだな。
・はじめて見たよ。
・ほうせきのようにかがやいてきれいだからたからものなのかな。

まもる会のおじさんのはなしをきいたとき
・たくさんの人が金ボタルを守っているんだ。
・金ボタルは町の人のじまんだな。
・いろんな人にも大切にしてほしいのだな。
・金ボタルはみんながたからもののように思って大切にしているんだな。

看板を見ている絵

もう一ど、金ボタルを見に行ったとき
・町の人みんながホタルをまもっているから、きれいなんだな。
・たくさんの人が大切に思っているから金ボタルが、町のたからものなんだな。
・町の人が大切にしている金ボタルを大切にしたいな。
・金ボタルも町の人もすてきだな。

お父さんと山の中で金ボタルを見ている絵

◇町の人たちみんなで大切にしているから、町のたからものなんだな。
金ボタルやそれをまもる人がいる町ってすてきだな。

○町のたからものを見つけてうれしかったこと

◇参考

金ボタル…雄で体長約９㎜、雌で体長約７㎜。普通に見られるゲンジボタルやヘイケボタルに比べて小さめのホタル。そのためヒメボタルとも名付けられている。雌は後翅が退化して飛べない。新見市哲多町にある八幡神社に生息している。

(3) ねらい

金ボタルが町の宝物だと思われるわけを考える中で、宝物のようにして町の人たちがみんなで大切に守っていることに気付き、自分の住んでいる地域に親しみをもって生活しようとする態度を養う。

(4) 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　町探検を振り返り、めあてをつかむ。	○　これは、新見市の金ボタルの写真です。この金ボタルが町の宝物だと言われていることを知っていましたか。	・町探検を振り返り、地域のよいところがたくさん見付かったことを話題にし、金ボタルの写真や教材名とつなぐことで、めあてへと導く。
どうして金ボタルがこの町のたからものなのだろう。		
2　「町の　たからもの　金ボタル」を読んで話し合う。	○　初めて金ボタルを見たたくやは、どんなことを思ったでしょう。 ・キラキラ光っていて、きれいだな。 ・この町に住んでいるけど、初めて見たよ。 ・宝石のようにかがやいていて、きれいだからたからものなのかなあ。	・たくやの言葉に目を向けさせることにより初めて見た驚きとその迫力、すごさに感動していることに気付くことができるようにする。
	○　金ボタルを守るための看板や、守る会のおじさんの話を聞いたとき、たくやはどんなことを思ったでしょう。 ・たくさんの人が金ボタルを守っているんだな。 ・町の人は、金ボタルが自慢なんだなあ。 ・いろいろな人にも、このホタルを大切にしてほしいのだな。	・看板やボランティアの人の話から、町の人たちが、金ボタルをとても大切にしていることを感じ取らせる。
	◎　もう一度、金ボタルを見に行ったとき、たくやはどんな気持ちで金ボタルを見たのでしょう。 ・町の人みんながホタルを守っているから、こんなにたくさんいて、きれいに見えるんだな。 ・たくさんの人が大切に思っているから金ボタルが町の宝物って言われるんだな。 ・町の人みんなが大切にしている金ボタルなのだから、自分も大切にしたいな。 ・金ボタルも町の人もすてきだな。	・児童がたくやになり、教師が父親役になり役割演技をすることにより、町の人の思いを知ったことで、前より一層きれいな宝物のように見えたたくやの気持ちの変化を、捉えさせる。 ・人々の力で金ボタルがキラキラと輝き、町の宝物となっていることに気付くことができるようにする。
町の人たちみんなで大切にしているから、町のたからものなんだな。 金ボタルやそれを守る人がいる町ってすてきだな。		
3　自分たちの町の宝物について話し合う。	○　あなたは、町の宝物を大切に守っている人たちがいることを知っていましたか。どのように思いますか。 ・毎年、お祭りをしているよ。おみこしの準備をしているのを見たことがあるな。 ・公園にはお花がいっぱい植えられているよ。そういえば家の人も花植えに行っているな。	・町のすてきなことを紹介した新聞作りを振り返り、町の人たちが一生懸命がんばっているすてきな姿を思い出し、どう思うか話し合わせる。
4　地域の人の話を聞く。	○　みんなの町の宝物について地域に住んでいる方の話を聞きましょう。	・地域（学区）の自然や文化財、それらを守っている人たちのビデオレターなどを活用することで、自分たちの町の宝物もやっぱり町の人たちに大切にされているんだな、という気持ちをもてるようにする。
自分たちの町にもみんなに大切に守られているたからものがあるな。他にもたからものをもっと見付けて大切にしたいな。		
評価の観点	・金ボタルを町の人々が宝物のように思ってみんなで大切に守っていることに気付くことができたか。 ・町の宝物をもっと見付け、大切にし、自分の住んでいる地域に親しみをもとうとする意欲を高めることができたか。	

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第２学年　**「ほんみちを　かえろう　－犬養　毅－」**

1　主題名　よいと思うことを進んで

2　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ａ　善悪の判断、自律、自由と責任「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」である。人として行ってよいこと、行ってはいけないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、幼い時期から徹底して身に付けておくべきものである。また、自分勝手ではなく正しく判断できる力を伴って、何事にも積極的に取り組む姿勢が大切である。

そこで、低学年では、進んで行うべきよいことと、人間として、してはならないことを正しく区別できる判断力を養い、よいと思うことができたときのすがすがしい気持ちを想起させるなどして、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養いたいと考える。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、よいことをして褒められたいという意識はもっているが、友達の誘いや利害などその場の条件や相手によって、自分がよいと思うことを進んで行うことができにくいことが多い。よくない行動と分かっていながらも誘われるとついつい断れなかったり、自分が進んでよいことをしなくてもよいと思ったりするようなことがしばしば見られる。

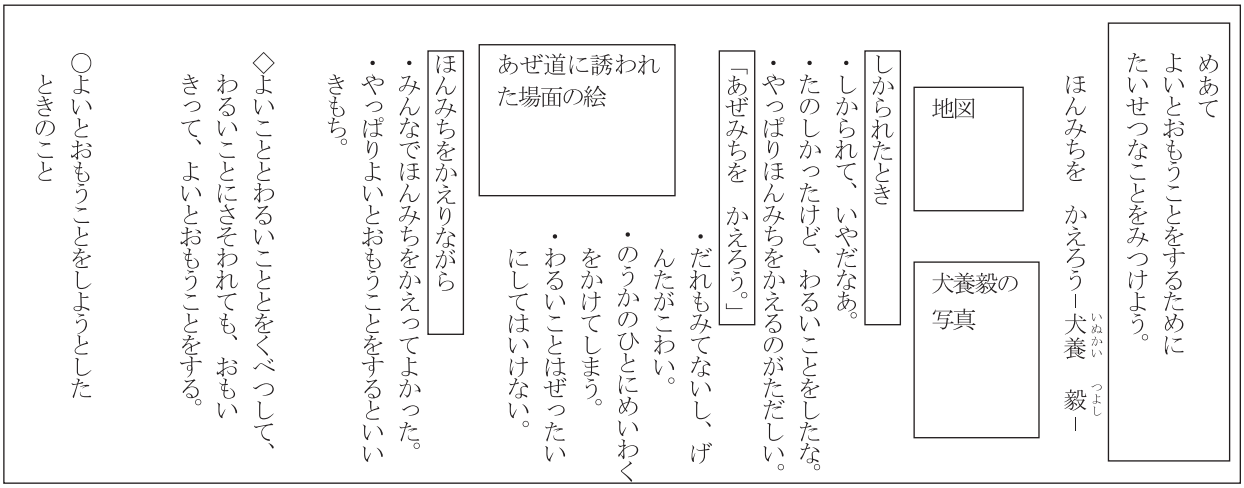
そこで、人に左右されることなく、よいことと悪いこととを的確に区別し、自分が正しいと信じるところに従って行動できるようにしたい。

(3) 教材について

犬養毅は、小さい頃から大変わんぱくであったけれど、温かい思いやりの心と、正しいと信じたことはたとえ一人になっても突き進んでいく行動力をもった人である。この話は、犬養毅が 11 歳の頃、仙次郎という名で漢学の塾へ通っていたときのことである。力の強いげん太に「あぜ道を帰ろう」と誘われた。あぜ道は近道になるしバッタもたくさんいておもしろい。他のみんなは、げん太について行こうとした。ところが、仙次郎は「ぼくは、本道を帰るよ。」と断った。それは、本道を帰るのが正しいことであぜ道を通るのはいけないことだと考えたからである。

してはいけないことは絶対にしないという正しい判断を貫き通し行動した仙次郎の心の中を考えさせたい。そして、よいと思うことができたときのすがすがしい気持ちを捉えさせ、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養いたい。

◇板書例



◇参考

犬養毅（1855～1932 年）。備中国庭瀬村（岡山市北区川入）に生まれる。1890 年第１回衆議院選挙に当選、以後 1898 年文部大臣、1931 年内閣総理大臣となる。1932 年の 5･15 事件で殺害される。

3　ねらい

よいと思うことをするために大切なことを考える中で、よいことと悪いこととを区別して悪いことに誘われてもはっきりと断ってよいことをすると、すがすがしい気持ちになることに気付き、自分がよいと思うことを進んで行おうとする態度を養う。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　犬養毅について聞き、めあてをつかむ。	○　犬養毅という人を知っていますか。 ・犬養毅さんは、どんな人かな。 ・悪い遊びって何だろう。 よいと思うことをするために大切なことを見付けよう。	・犬養毅の写真や簡単な地図を見せながら、みんなと同じ岡山県出身の総理大臣であったことを話した上で、子どもの頃悪い遊びに誘われたことを話題にし、めあてにつなぐようにする。
2　「ほんみちをかえろう－犬養毅－」を読んで話し合う。	○　おじさんに叱られてみんなと本道を帰りながら仙次郎はどんなことを考えていたでしょう。 ・しかられて、いやだなあ。 ・楽しかったけどバッタとりはいけなかった。 ・稲を踏みつぶして悪いことをしたな。 ・やっぱり本道を帰るのが正しいことだ。 ◎　げん太に「あぜ道を帰ろう。」と誘われたとき仙次郎はどんなことを思ったでしょう。 ・誰も見ていなくても、げん太に誘われても、悪いことは絶対にしないぞ。 ・自分がよいと思うことをしよう。 ・大事な稲を踏みつけて農家の人に迷惑をかけてはいけないから、本道を帰ろう。 ・誰も見ていないから叱られないし、げん太が怖いし、あぜ道に行こうか、どうしようか。 ○　本道を帰りながら、仙次郎はどんなことを思っていたでしょう。 ・みんなで本道を帰ってよかった。 ・よいと思うことをするといい気持ちだ。 よいことと悪いこととを区別して、悪いことに誘われても、はっきり断って、よいと思うことをすることが大切だな。その方が気持ちいい。	・本道とあぜ道の違いを補説し、あぜ道を通ってバッタをとりたくなった仙次郎の気持ちに共感できるようにする。また、農家の人に迷惑をかけてしまうので本道を帰らなければならないと正しい判断もできていたことに気付かせる。 ・げん太に誘われたときの仙次郎の気持ちをワークシートに書かせることにより、人に左右されがちな人間の弱さについて考えることができるようにする。 ・「ぼくは、本道を帰るよ。」と言った根拠を話し合うことにより、単に叱られるのがいやだからではなく、自分がよいと思うことを進んでしようとしたことに気付くことができるようにする。 ・本道を帰っていると、友達やげん太がついてきたときの仙次郎の気持ちを考えることで、よいと思うことを進んでしたときのすがすがしい気持ちを感じ取ることができるようにする。
3　よいと思うことを行うことについて、今までの自分を振り返る。	○　自分がよいと思うことをしようとしたときのことを考えてみましょう。 ・悪いと思ったけど、ついつい誘われてしまったことがある。 ・ドキドキしたけど、思い切って「止めよう。」と言えて、すっきりしたことがある。	・場面絵を提示し、よいと思うことをしようとしたときのことを想起させ、そのときの自分は、どんな気持ちでどのように行動したかを振り返ることができるようにする。 ・よいと思うことを進んでするために大切なことを一人一人が自分のカードにまとめるようにする。
4　先生の話を聞く。	○　先生の話を聞きましょう。 ・先生にもこんなことがありましたよ。 わたしは、よいと思うことを進んでするためには、○○することが大切だと思った。	・教師が体験したことを話すことにより、実践しようとする意欲を高める。
評価の観点	・人に左右されず自分がよいと思うことを進んですると、すがすがしい気持ちになることに気付くことができたか。 ・よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

日常生活等で自分がよいと思うことを進んでしようとしたことを把握しその都度称賛するようにする。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第２学年　**「日本の　お父さん　－石井十次－」**

１　主題名　温かい心で親切に

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｂ　親切、思いやり「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」である。よりよい人間関係を築く上で求められる基本姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち、親切にすることはとても大切である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

中・高学年では、相手の気持ちを察し深く理解したり、相手の立場を考え自分がどうすることが相手のためになるのかを考えたりすることが求められる。そのためには、低学年で幼い人や高齢者、友達などの身近な人に広く目を向け、温かい心で接し親切にすることの大切さについて考えを深めることが大切である。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、発達的特性から自己中心的な考え方をすることが多い。一方で、家族だけでなく家の周りや学校の人々、友達など周囲との関わりが次第に増えてくる。このような様々な人々の関わりを通して、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになると考えられる。

そこで、身近な人々との関わりを通して、相手のことを考え優しく接したり、相手の喜びを自分の喜びとして実感したりできるようにし、親切にすることの大切さについてしっかり考えさえたい。

(3) 教材について

この教材は、児童福祉の父と呼ばれ、日本で初めて孤児院を開いた石井十次が初めて孤児を引き取ることになった時の話である。医者を目指している 22 歳の十次は、旅の途中の貧しい母子に出会う。母親の必死の願いを受け、定一という男の子を引き取ることにしたが、母親と離ればなれになった定一は毎日泣くばかりである。十次は、定一をどうにかして笑顔にしてやろうと自分が父親になったつもりでかわいがる。いつしか、定一の顔に笑顔が見られるようになり、そんな定一の笑顔を見ていると、十次も今までにない充実感を感じ、その充実感が十次のそれからの人生を変えていくことになるという内容である。

母親がいながら離ればなれに暮らし、その子を預かるということは今の時代あまり見られないことである。しかし、家族と離れて暮らすという辛さは共感できると考えられる。さびしい思いをしている定一を笑顔にしようと頑張った十次が、ついに定一の笑顔を見たときの気持ちを考えさせ、親切にすることの大切さについて考えさせたい。そして、相手のことを考え温かい気持ちで身近な人に接しようとする気持ちを育てたい。

◇板書例

日本のお父さん　～石井十次～

めあて
人にしんせつにすることの大せつさについてかんがえよう。

おねがいをする母親を見て

・だいじょうぶかな。
・ことわれないな。
・じぶんがあずかるほうがいい。

なきつづける定一とくらしながら

・かわいそうなことをした。
・定一はつらいよな。
・えがおになってほしい。
・どうしたらいいのかな。

定一のえがおを見て

・えがおになってよかった。
・気もちがつたわってよかった。
・じぶんもしあわせな気もちになるな。
・いろんな人をえがおにしたい。

◇しんせつにするとあい手もよろこんでくれるし、じぶんもうれしくてげん気が出てくる。

○しんせつにできたときのこと

◇参考

石井十次（1865～1914 年）宮崎県で生まれる。1887 年に邑久郡大宮村で診療所の代診に赴いた後、孤児を預かるようになり、同年に門田村（現岡山市中区門田屋敷）の三友寺に孤児教育会（後の岡山孤児院）を設立。日本にまだ社会福祉という概念がない時代に延べ三千人にも上る孤児を救い、社会福祉を実践した。

参考文献「石井十次物語」（大宮を考える会）。「まんが石井十次物語」（岡山「石井十次顕彰会」設立準備会）。

3　ねらい

人に親切にすることの大切さについて考える中で、相手のことを考え、温かい心で接すると相手も喜ぶし、自分もうれしくなって元気が出てくることに気付き、身近な人に進んで親切にしようとする態度を養う。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　親切にすることについて話し合い、めあてをつかむ。	○　人に親切にしてもらったことがありますか。そのとき、どんな気持ちがしましたか。 ・○○をしてもらったとき、うれしかった。 人にしんせつにすることの大せつさについてかんがえよう。	・親切にしてもらったときの気持ちを思い出すとともに、石井十次がさびしい思いをした子どもたちのために力を尽くし、「日本のお父さん」と言われるようになったきっかけを話題にし、めあてを示す。
2　「日本の　お父さん　−石井十次−」を読んで話し合う。	○　涙を流しながらお願いする母親を見て、十次はどんなことを思ったでしょう。 ・自分も貧乏なのだけど、大丈夫かなあ。 ・涙を流しての願いだから、ことわれないな。 ・暮らしのことを考えると、母親にとっても、定一にとっても自分が預かることはいいことだ。	・当時の貧しい暮らしの様子について補足説明をし、母親が子どもを育てることが難しかったことを確認した上で、母親の涙ながらの願いを聞いて、預かろうと決心した十次の気持ちに共感させる。
	○　母親と別れて泣き続けている定一と暮らしながら、十次はどんなことを思ったでしょう。 ・定一は、貧乏でも母親と一緒に暮らせるほうがよかったのだ。かわいそうなことをしてしまったな。 ・母親と離れて暮らすのはとても辛いことだな。 ・自分が定一を幸せにしてやらなければ。 ・定一が辛い思いをせず笑顔になってほしいけど、自分は何ができるだろう。	・預かったことの後悔や焦り、かわいそうな定一を思いやる気持ち、自分が何とかしなければと責任を感じている気持ちなど、十次の気持ちを多面的に捉えさせる。
	◎　定一の笑顔を見て、十次はどんなことを思ったでしょう。 ・笑顔になってよかった。ほっとした。 ・定一のことを本当に考えている自分の思いがうまく伝わってよかったな。 ・定一が笑顔になったのを見ると、自分も幸せな気持ちになり、なんか元気が出てきたようだ。 ・これからは、定一だけでなくいろんな人を笑顔にしていきたいな。 人にしんせつにするとあい手もよろこんでくれるし、じぶんもうれしくてげん気が出てくる。しんせつにすることは大せつだな。	・定一の辛い気持ちを思いやり、自分が幸せにしたいという十次の気持ちに気付いたところで、「十次になって、定一が笑顔になるように声をかけてみましょう。」と、役割演技を取り入れ、定一を笑顔にした時の十次の喜びがより分かるようにする。 ・心の中にどんな力がわいたかを話し合い、定一の笑顔は十次の相手を思う気持ちが元になったことに気付かせ、親切な行動が十次の喜びにつながったことを感じられるようにし親切にすることの意義につなぐ。
3　親切にできたことについて、今までの自分を振り返る。	○　今まで親切にできたときのことについて考えてみましょう。 ・親切にできたときは、相手もうれしそうだった。 ・けがをして痛そうだったから、一緒に保健室について行ったことがある。ありがとうって言ってもらってうれしかったよ。	・相手に親切にすることができたかどうかという経験を振り返らせる際、してもらった側の気持ちも尋ね、相手がどう感じたかを実際に聞くことで、親切な行動をしてよかったなという思いを実感させ、自分の喜びにつながるようにする。
4　先生の話を聞く。	○　先生の話を聞きましょう。 わたしは人にしんせつにすると、じぶんもうれしい気もちになるので、しんせつにすることは大せつだと思う。	・親切にしたことで、相手も喜んでくれたし、自分も元気が出た体験を教師が話すことにより、実践しようとする意欲を高める。
評価の観点	・親切にすると相手も喜ぶし、自分もうれしい気持ちになり、元気が出てくることに気付くことができたか。 ・身近にいる人たちに進んで親切にしていきたいという意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

日常生活の中での「親切見付け」をし、互いの気持ちをカード等に記録することで、自分がしたことだけでなく、相手のうれしい気持ちも実感できるようにする。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第３学年　**「まつりまでには　－宮本武蔵－」**

１　主題名　自分の決めたことに向かってがんばる心

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ａ　希望と勇気、努力と強い意志「自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。」である。自分でしようと決めたことを最後までやりとげることは、自分自身を高めていくために大変意義のあることである。そして、継続していく困難さや障害を乗り越えて目標を達成できた時、その喜びはこの上ないものであり、その時の成就感は将来にわたって自分の自信となっていくものである。こうしたことから、苦しみに打ち勝ち、自分を励ましながら粘り強く取り組む姿勢を育てることが大切であると考える。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、勉強や運動だけでなく、様々なことに興味・関心を広げ活動的になり、自分の好きなことに対しては自ら目標を立て、継続して取り組むことができるようになってくる。その反面、つらいことや苦しいことがあると途中であきらめてしまうこともある。そこでこのような児童に、つらいことや苦しいことに出会ってもそれを乗り越えて努力を続けると、喜びや充実感があることを感じ取らせ、自分で決めたことはくじけず最後までやり通そうとする心情を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、江戸時代初期の剣術家、宮本武蔵の少年時代の話である。左利きの武蔵が、つらい練習を続けた末に、太鼓が両手で上手に打てるようになった経過が語られている。児童にとって、できるようになるまで自分の決めたことに努力する姿やつぶれた血豆を見つめてくじけそうになる武蔵の様子は共感しやすいと思われる。自分を信じて粘り強い努力を重ね、太鼓がうまく打てるようになった達成感と充実感を十分に感じさせたい。また、身近な人々の励ましや、できるように工夫することの大切さにも気付かせたい。

◇板書例

まつりまでには　－宮本武蔵－

宮本武蔵（みやもとむさし）…けんの名人

めあて
自分のきめたことをがんばるために
大切な気もちを考えよう。

うまく打てない
・もうむりだ。
・どうしたらうまくなるんだ。

手のひらをじっと見つめながら…
・ぼくにはど力がたりない。
・お姉さんがはげましてくれるからがんばろう。
・もっとうまく打てるようになるためにくふうしよう。
・自分できめたから、がんばろう。
・これまでがんばってきたからうまくなっているはず。

ばちを持つ手を
見つめるたけぞう

うまく打てた
・あきらめないでよかった。
・まつりでたいこ打ちができてうれしい。

◇大へんでもよりよくなろうと思ってがんばる気もちが大切。

○よくなろうと思ってがんばったこと

◇参考

宮本武蔵（1584？～1645年）。現在の岡山県英田郡大原町宮本の生まれ（兵庫県生まれという説もある）。江戸時代初めころの剣術家、兵法家。二刀流兵法で有名。水墨画などの芸術の才能の高さもよく知られている。

3　ねらい

自分で決めたことを頑張るために大切な気持ちを考える中で、困難に出会ってもよりよくなろうと思ってやりぬくことの大切さに気付き、自分で決めたことを最後までやり遂げようとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　宮本武蔵について聞き、めあてをつかむ。	○　宮本武蔵という人を知っていますか。 ・剣の達人だと聞いたことがある。 ・太鼓も上手だとは知らなかったな。	・宮本武蔵駅の写真を見せながら、宮本武蔵が美作地区の生まれであることを伝え、練習を頑張って太鼓の演奏が上手になったことを話題にして、めあてをもちやすくする。
自分の決めたことをがんばるために大切な気もちを考えよう。		
2　「まつりまでには －宮本武蔵－」を読んで話し合う。	○　なかなかうまく打てず、ばちを投げ出したときのたけぞうは、どんなことを考えていたのでしょう。 ・どうしたらうまく打てるのだろう。 ・もう無理だ。 ◎　血のにじんだ手のひらをじっと見つめているたけぞうは、どんなことを考えていたのでしょう。 ・ぼくは努力がまだ足りなかったのだ。 ・姉さんが励ましてくれるから頑張ろう。 ・自分で決めたことだから頑張ろう。 ・もっとうまく打てるようになるためにもっと工夫しよう。 ・これまで頑張ってきたからうまくなっているはず。 ○　祭りの日、うまく太鼓が打てたたけぞうはどんな気持ちだったでしょう。 ・あきらめないでよかった。 ・祭りで太鼓打ちができてうれしい。	・たけぞうが練習を始めた理由を補助発問として問うことで、自分で決めたことを頑張ろうとしている気持ちを理解できるようにする。 ・手のひらを見つめるたけぞうの思いをワークシートに書くことで、頑張ろうと思えたたけぞうの気持ちを考えやすくする。 ・一度意欲を失いかけたのに、もう一度頑張ろうと思えるようになった根拠を問うことで、努力が足りなかった反省やうまく打てるようになりたいと思って自分の決めたことを最後までやり抜こうとするたけぞうの思いに気付きやすくする。 ・上手になった時のたけぞうの喜びを考えることで、よりよくなろうと努力したからこそ大きな喜びをもてたことを理解しやすくする。
大へんでもよりよくなろうと思ってがんばる気もちが大切だな。		
3　粘り強くやり抜くことについて今までの自分を振り返る。	○　これまで決めたことをよくなりたいと思い頑張ることができていましたか。 ・リコーダーを上手に演奏しようと思ってできるようになるまで頑張った。 ・もし嫌だと思っても、できるようになったらうれしいから頑張りたい。	・学級目標や学期の自分の目標など具体的な目標を想起させることで、よりよくなろうと思って努力する気持ちについて自分との関わりで振り返らせる。
4　教師の話を聞く。	○　先生の話をします。	・教師の体験を話すことで、よくなりたいと思って努力していく大切さをより深く理解できるようにする。
自分で決めたことは、大へんでももっとよくなろうと思ってがんばっていきたい。		
評価の観点	・よりよくなろうと思って努力を続けることの大切さに気付くことができたか。 ・自分で決めたことはよりよくなろうと思って最後まであきらめずに努力しようとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

日常生活や教科等の中で自分が頑張ることを決めて、あきらめずに努力している姿を称揚する。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第３学年　**「わたしたちの後楽園」**

１　関連的な道徳の学習のテーマ　わたしたちの地域を大切に

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、総合的な学習の時間や、地域での活動などと関連を図りながら学習を進めることで、郷土のすばらしさを実感し、郷土を愛するとともに、郷土の伝統や文化を大切にし、地域の人々と積極的に関わりながら活動しようとする態度を養う。

３　構想図（９月下旬～10月中旬）

【日々のくらし】　【道徳科】　【各教科等】　【児童の意識】

帰りの会等
「わたしたちの道徳」
ふるさとしょうかいを記入する。　支援１

朝の会等
・地域の自慢スピーチ

総合的な学習の時間
「大好き！わたしたちの地域」
〈地域の自まん見付け〉
・商店街、史跡、建物、自然等、地域の自まんを見付け、わかったことや感想を書きためていく。　支援２

道徳科
主題名　大好きな地域
内容項目　C　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心
教材名　「わたしたちの後楽園」
ねらい　地域のことを理解するために大切な気持ちを考えることを通して、地域のために活動している人々の思いを知り、地域の活動に関わろうとする気持ちの大切さに気付き、自分も地域に積極的に関わろうとする心情を育てる。　支援３

・自分にできることにチャレンジしよう。
ゴミ拾い、空き缶拾い、落書き消し、お祭り、盆踊りへの参加（課外）
・「大好き！わたしたちの地域」のまとめ
新聞づくり、発表会等　支援４

帰りの会等
「わたしたちの地域を大切に」の振り返りをする。　支援５

・わたしたちの住んでいる地域にもすてきなところがたくさんありそうだな。
・地域にこんな所があるなんてすごい。
・地域の人はいろいろなことをしているんだな。
・もっと地域のことを知りたいな。
・地域の人はこんなに地域のことを大切に思っているんだな。
・自分も地域の人の思いを知って、地域の活動に参加しようとする気持ちが大切だな。
・地域の人たちとゴミ拾いをしたよ。きれいになってうれしかったよ。
・地域や地域の人のすばらしさがよく分かったよ。
・今までより地域のことがよく分かり、好きになったよ。
・地域のためにできることを見付けてもっとやっていきたいな。

４　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

「わたしたちの道徳」にふるさとしょうかいを記入することで、自分たちの地域のすてきな場所やすてきなことについて話し合い、地域のすばらしさを意欲的に見付けようとする価値追求の構えをもつことができるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

総合的な学習の時間「大好き！わたしたちの地域」の活動を中心に、地域について自分の設定した課題を詳しく調べたり、まとめたりしていくことで、自分たちの地域のよさを感じ、地域の人が地域のためにしてくれていることについて関心をもつことができるようにする。自分たちの地域のことをもっと知りたいなと思う気持ちが高まったところで「もっと地域を知るためにはどんな気持ちが大切なのかな。」という課題意識をもてるようにする。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、「大好き！わたしたちの地域」の学習を通して感じたことについて話し合い、「もっと地域のことを知るために大切な気持ちを考えたい。」という課題意識をもてるようにする。

展開前段では、後楽園ボランティアの人の言葉を聞いた主人公の気持ちについて「どうして顔を見合わせてにっこりしたの？」と問い、総合的な学習の時間に調べた、地域の人が地域のことを思っていろいろなことをしてくれていることや、自分たちの地域をすばらしいなと思う自分の気持ち等を主人公の気持ちに重ねながら話し合うことができるようにする。さらに、家に帰ってから母と話している場面の主人公の気持ちを中心発問として取り上げ、「どうしてイベントに行ってみようとか、調べて分かったことをたくさんの人に伝えたいとまで思うようになったの？」と主人公の思いの根拠を問い、ペアで話し合うことで、後楽園ボランティアの人の思いに触れ、後楽園に愛着をもち、自分も後楽園に関わりたいと思い始めた主人公の気持ちに気付くことができるようにし、「自分も地域の活動に関心をもったり参加したりしていくことが大切だな。」という思いを深めていけるようにする。

展開後段では、これまでの体験に基づいて、地域の活動に参加した時の楽しさを振り返るようにする。

さらに、終末に、総合的な学習の時間にお世話になった地域の方のビデオレターを紹介し、地域や地域の伝統に対する思いを語っていただくことで、地域への思いを深めることができるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

総合的な学習の時間や、課外の活動で、地域の行事や、祭りなどの地域での活動に参加しながら、地域のすばらしさや地域で活動することの楽しさを感じ、進んで地域に関わりたいと思う気持ちを高めるようにする。

また、総合的な学習の時間に、自分たちで調べたことや、地域の中で地域の人と共に活動したこと等についてまとめていくことにより、自分たちの地域の伝統について知ったり、地域の人が地域への愛着を感じながら活動していることのよさを感じ取ったりすることができるようにする。さらに、分かったことや感じたことを、新聞にまとめたり、発表会を開いて多くの人に伝えたりすることを通して、地域の活動に進んで参加することのよさを実感できるようにする。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

学習の最後に、書きためた資料や新聞、「わたしたちの道徳」、地域での体験活動の記録等を見直し、関連的な道徳の学習全体を振り返って自分の地域への思いがどの様に変わったかについて感想を書き、話し合うことで、今までよりもっと地域のことを好きになり、地域の活動に参加したい、もっと地域のために何かしたいと思っている自分に気付くことができるようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　大好きな地域

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心となる内容項目は、C　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。」である。地域の人々や生活、伝統、文化に親しみ、それらを大切にすることを通して、郷土を愛することについて考えさせ、地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。

中学年では、地域学習が始まったり、地域の行事や活動に参加したりする機会が多くなる。これらの活動に主体的に関わり、楽しむ中で、地域の人々や生活、伝統と文化に親しみを感じ、郷土を大切にし、愛する心を育てたいと考えた。

②児童の実態について

関連的な道徳の学習の中で、「わたしたちの道徳」の「ふるさとしょうかい」の記入、総合的な学習の時間「大好き！私たちの地域」の活動を通して、地域にはすばらしいところがたくさんあることや、地域のよさ、地域の活動に参加することの楽しさに気付き始めており、地域についてもっと知りたいなと思うようになってきている。しかし、まだ、単なる探検活動に終わり、地域の伝統・文化や地域の活動の楽しさを支えている地域の人々の思いにまで目が向いているとは言えない。

そこで、子どもたちが地域に愛着をもち、地域の中で、地域の人々と関わりながら自分も積極的に活動していこうとする気持ちを育てるようにしたい。

③教材について

中心教材は、「わたしたちの後楽園」である。地域学習で後楽園の探検に出かけ、後楽園の楽しさやすばらしさを感じた主人公は、後楽園ボランティアの人と触れ合うことで、後楽園のすばらしさを多くの人に伝えようとしている人の存在に気付く。家に帰って今日のことについて母と話をしながら、自分のすぐそばの後楽園ボランティアをしているおじさんの存在を知り、自分も後楽園のことをもっと調べたり伝えたりしたいと思うようになるという内容である。

この教材を通して、後楽園のよさを伝えようとしている後楽園ボランティアの方に出会い、うれしく思う主人公の気持ちに共感させるとともに、後楽園に愛着をもち始め、後楽園ボランティアの人と関わりながら活動したいと思い始めた主人公の気持ちに十分共感できるようにしたい。

そして、地域の活動に参加した体験を話し合いながら、自分たちが住んでいる地域のすばらしさに目を向け、地域や地域の人と積極的に関わっていこうとする心情を育てたい。

◇板書例

めあて
もっと地いきのことを知るために大切な気持ちを考えよう。

わたしたちの後楽園

唯心山

ハス

タンチョウ

後楽園をたんけんしているとき
・すごいな。きれいだな。

ボランティアの人の話を聞いて
・後楽園が大すきだから、ボランティアをしているんだな。
・後楽園にかかわっている人がこんなにたくさんいるんだな。
・後楽園がもっと好きになりそうだな。

お母さんと話しているとき

場面絵

・後楽園ボランティアの人がみ近にもいるんだな。
・イベントに行ってみたいな。
・後楽園について調べてたくさんの人につたえたいな。
・自分にできることをしたいな。

◇地いきの人の思いを知り、地いきのかつどうにさんかすることが大切。

○地いきのかつどうにさんかしてよかったこと

◇参考

「後楽園」（山陽新聞社）。岡山後楽園ホームページ。

(3) ねらい

地域のことを理解するために大切な気持ちを考えることを通して、地域のために活動している人々の思いを知り、地域の活動に関わろうとする気持ちの大切さに気付き、自分も地域に積極的に関わろうとする心情を育てる。

(4) 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　これまでの活動を通して感じたことを話し合い、めあてをつかむ。	○　今まで「大好き！わたしたちの地域」の学習をしてどんなことを思いましたか。 ・おもしろいところがたくさんあった。 ・自慢できるところがあったよ。 ・地域の人がいろいろしてくれていた。	・「大好き！わたしたちの地域」の学習を通してもった感想を話し合うことで、地域への興味が高まっていることを話題にし、本時のめあてをもちやすくする。
もっと地いきのことを知るために大切な気持ちを考えよう。		
2　「わたしたちの後楽園」を読んで話し合う。	○　後楽園を知っていますか。 ○　後楽園を探検しているとき、わたしはどんなことを思ったでしょう。 ・すごいな。きれいなところだな。 ○　ボランティアの人の言葉を聞いて、わたしはどんなことを思ったでしょう。 ・後楽園が自慢なんだな。 ・後楽園が大好きだから、ボランティアをしているんだな。 ・後楽園に関わっている人がこんなにいるんだな。 ・自分も後楽園が好き。うれしいな。 ◎　家に帰ってお母さんと話をしながら、わたしはどんなことを考えたでしょう。 ・後楽園が大好きで働いている人が身近にもいるんだな。 ・イベントに行ってみたいな。 ・後楽園について調べてたくさんの人につたえたいな。 ・自分にできることをしたいな。	・後楽園の写真を見せ、実態に合わせて後楽園に興味がもてるようにする。 ・写真を見せながら後楽園を探検しているときの思いを問うことで、後楽園のすばらしさを感じている主人公の気持ちに共感できるようにする。 ・「どうして顔を見合わせてにっこりしたの？」と問い、後楽園のすばらしさをお客さんに伝えようとしているボランティアの人の気持ちに触れ、自分たちもうれしくなっている主人公の気持ちに共感しやすくする。 ・「どうしてイベントに行ってみようとか、調べて分かったことをたくさんの人に伝えたいとまで思うようになったの？」と問い、話し合うことで、後楽園ボランティアの人の思いに触れ、後楽園に愛着をもち、自分も後楽園に関わりたいと思い始めた主人公の気持ちに気付けるようにする。
地いきの人の思いを知り、地いきのかつどうにさんかしようとする気持ちが大切だな。		
3　自分たちの地域の活動に参加した経験について話し合う。	○　自分たちの地域の活動に参加してよかったよということがありますか。 ・お祭りで獅子舞を見てすごかったよ。 ・盆踊りに参加して、いろんな踊りを教えてもらって楽しかったよ。	・地域の活動に参加した体験を話し合うことで、地域の活動に参加することの楽しさを振り返ることができるようにする。
4　地域の方のお話を聞く。	○　この地域の伝統を、おじさんたちは大切に守って広めているんですよ。	・地域の方が地域のよさや地域への思いを語っている姿に触れることで、地域を大切にしようとする気持ちをさらに高めるようにする。
自分も地いきのかつどうにもっとさんかしたいな。		
評価の観点	・地域の人の思いを知り、地域の活動に参加することの大切さについて気付くことができたか。 ・自分も地域の活動に積極的に参加しようとする意欲を高めることができたか。	

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第３学年　**「がんばれカブトガニ」**

１　主題名　自然や動植物を大切にしよう

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｄ 自然愛護「自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。」である。人間は自然の中で動物や植物とともに生きている。人間と動植物が共存していくことが自然の摂理である。しかし、最近では、自然の破壊がどんどん進み、その結果、動植物が滅び、ひいてはそれが人類存続の危機につながりつつある。

自然の厳しさに耐え乗り越えながら生き続ける生き物の姿から、生きているものの美しさと尊さに気付かせていくことが大切である。そして、この自然の中で共に生きているものとして進んで手を差し伸べ、命あるものを育もうとする態度を育てていかなければならない。

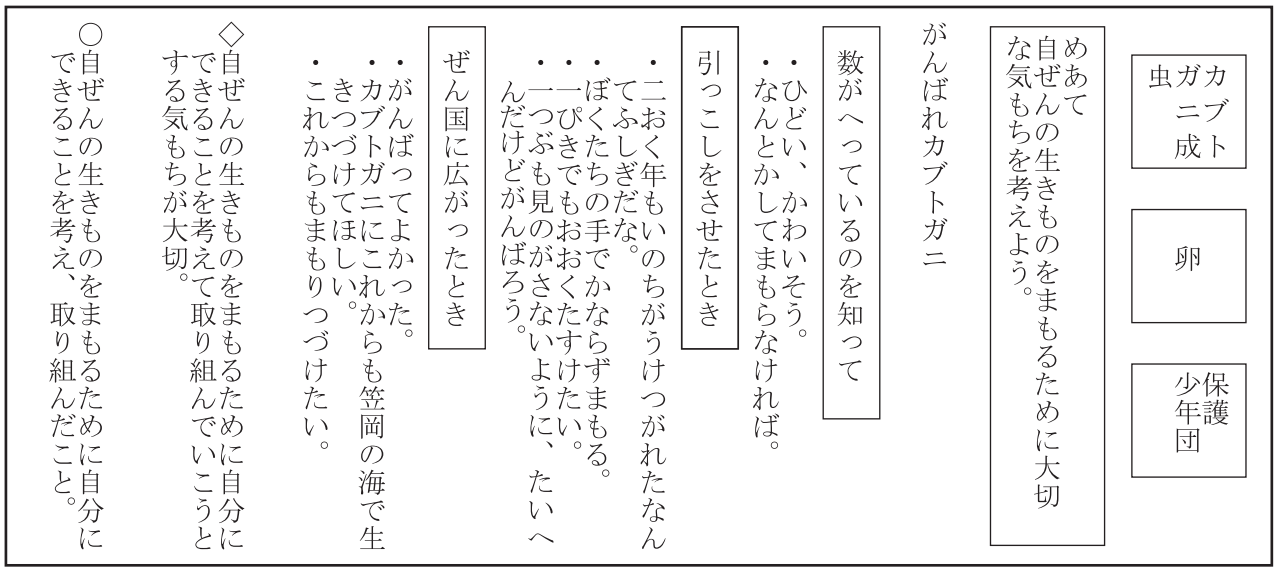
(2) 児童の実態について

児童は、美しい草花やかわいい小動物が大好きである。実際、草花を育てたり、虫や魚や小鳥などを飼ったりしているし、世話も熱心にしている。しかし、その様子を見ると、忙しかったり、他に興味が移ったりすると、水をやるのを忘れて枯らしてしまったり、えさやりや水換えを忘れて死なせてしまったりすることもある。児童は小鳥がかわいいから餌をやり、花が好きだから水をやっているのである。自分の感情を中心にして生き物に接している児童に、生きているものの姿を認識させ、その尊さに気付かせたい。

(3) 教材について

本教材は、笠岡市のカブトガニ保護少年団が中心となり、カブトガニを守った話である。干拓によって多くのカブトガニが住み処を失い、その数がどんどん減っていく様子から、笠岡の海からカブトガニがいなくなることを心配した地元の中学校の先生や生徒により、カブトガニ保護少年団が結成され、保護活動が始まった。その活動は、徐々に周りの人たちの理解を得て、カブトガニを守る運動の輪は広がっていった。カブトガニを守ろうとする人々のカブトガニに対する深い愛情と、環境保全の大切さに気付かせ、自分たちも進んで生き物を大切に育んでいこうとする態度を育てていきたい。

◇板書例



◇参考

土屋圭示著「どんがめの海」誠文堂新光社
笠岡市公式ホームページ　カブトガニ博物館

3　ねらい

自然の生き物を守るために大切な気持ちを考える中で、自然の生き物を守るために、自分にできることを考え、取り組もうとする気持ちの大切さに気付き、自分にできることを進んで取り組んでいこうとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　カブトガニについて話し合い、めあてをつかむ。	○　カブトガニを知っていますか。 ・二億年も変わらず生きているなんてすごい。 ・岡山県の笠岡市にいたんだな。すごい。 ・いなくなるのはかわいそう。	・写真を見せながらカブトガニの生態を知らせ、関心を高める。 ・カブトガニがいなくなってしまう危機を救った人たちがいたことを話題にし、めあてをもちやすくする。
	自ぜんの生きものをまもるために大切な気もちを考えよう。	
2　「がんばれカブトガニ」を読んで話し合う。	○　カブトガニが減っていることを知った中学生や先生はどんなことを思ったでしょう。 ・なんとかして守りたい。守らなければ。	・このままだとどうなるか問い、自分たちが守るという中学生や先生の気持ちに共感できるようにする。
	◎　保護少年団の人たちはどんな気持ちでカブトガニを引越しさせたのでしょう。 ・この卵で二億年もの間カブトガニの命が受け継がれたなんてすごいな。 ・かけがえのない生き物だからぼくたちの手で必ず守りたい。 ・大切な命だから、一粒でも見逃さずに助けたい。	・砂浜の卵の写真を見せ、「どうしてそんなに苦労してまでカブトガニを守ろうとしたのか。」と問い、グループで話し合うことで、カブトガニがかけがえのない生き物であり、できる限りのことをして守りたいという気持ちに気付けるようにする。
	○　カブトガニを守る活動が全国に広がり、数も増え、保護少年団の人たちはどう思っているでしょう。 ・がんばって活動してよかった。 ・これからも笠岡の海で生き続けてほしい。みんなで大切に守りたい。	・活動の輪が広がり、喜びを感じている保護少年団の人の気持ちに共感するとともに、現在も人々に願いが受け継がれていることから、自分も自然の生き物を大切にしようとする心情を深めることができるようにする。
	自ぜんの生きものをまもるために自分にできることを考えて取り組んでいこうとする気もちが大切だな。	
3　自然の生き物とのかかわりについて振り返る。	○　自然の生き物を守るために、自分にできることを考えたり、守る活動をしたりしたことがありますか。 ・ホタルの里の話を聞いて川を汚さないようにしたいと思った。 ・ヤゴが住める環境を守るために自分も水を大切に使っているよ。	・身近な自然に関わった活動の写真等をもとに自然の生き物を守りたいなと思ったことを想起し、そのときしたことやしたいと思ったことについて振り返ることができるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　先生の話を聞きましょう。 ・先生も自然を守る活動をしています。	・教師が体験を話すことにより、実践しようとする意欲を高める。
	自分にできることを考えて自ぜんの生きものを大切にしたり、まもる活動に参加したりしていきたいな。	
評価の観点	・自然の生き物を守るために自分にできることを考えて取り組もうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。 ・自然の生き物を守ることについて自分にできることを考えて進んで取り組んでいこうとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

総合的な学習の時間や理科の時間等の学習の際、自然のすばらしさや、不思議さ、美しさ、かけがえのなさを感じ取ることができるような栽培活動、飼育活動等を行い、実感がもてるようにする。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第４学年　**「幸せの黄色い道　－三宅精一－」**

１　関連的な道徳の学習のテーマ　相手の思いを想像して

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科の時間を要として、国語科、総合的な学習の時間との関連を図りながら学習を進めることで、相手のことを思いやり進んで親切にしようとする態度を養う。

３　構想図（９月）

【日々のくらし】

帰りの会等
やさしさみつけ

【道徳科】　【各教科等】

国語科
「『伝え合う』ということ
（手と心で読む）」
点字の誕生について読む。 支援１

総合的な学習の時間
「みんなにやさしい町」
バリアフリーについて調べたり、手話体験、アイマスク体験などをしたりすることを通してみんなにやさしい町について考える。支援２

道徳科
主題名　相手の身になって
内容項目　B　親切、思いやり
教材名　「幸せの黄色い道 －三宅精一－」
ねらい　みんなに親切にするために大切な心について考える中で、自分のこととして相手の思いを考えると人に親切にできるようになることに気付き、相手の思いを考えながら、進んで親切にしていこうとする態度を養う。 支援３

自分たちの町をもっとみんなに優しい町にするために自分たちにできることを実践し、「思いやりの町プラン」を発表する。
支援４

帰りの会等
関連的な道徳の学習を振り返り、人に親切にすることについての自分の変容をまとめる。 支援５

【児童の意識】

・ルイ＝ブライユは目の不自由な人のために点字を作ったんだ。すごいな。
・点字についてもっと知りたいな。

・自分たちの町にもいろいろな人に優しい工夫がたくさんあるんだな。
・身体が不自由だと、道路を歩くだけでも不安な気持ちになるんだな。

・学級の友達に親切にできるようになってきた。もっとたくさんの人に親切にできるためにはどんな心を大切にすればいいのだろう。
・自分のこととしてその人の思いを考えると、人に親切にできるようになるんだな。

・町のみんなが困っている人の気持ちを考えると、親切でいっぱいの町になりそうだな。

・相手の思いを考えて親切にすることができるようになってきた。身近な人だけでなく、町で会った人にも同じように親切にしていきたいな。そして、みんなに優しい町にしていきたいな。

４　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

国語科「『伝え合う』ということ（手と心で読む）」の学習で、ルイ＝ブライユが点字を発明したことや点字のおかげで目の不自由な人たちが字を読むことができるようになったことなどを読み取ることを通して、様々な人が暮らしやすいように工夫された道具や施設などに興味をもつことで道徳的価値に対する構えが高まるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

総合的な学習の時間「みんなにやさしい町」で、町の中にあるバリアフリーについて調べたり、手話体験、アイマスク体験などの体験活動をしたりすることを通して、「みんなにやさしい町」とはどういう町かについてまとめる。その後、自分たちの町はみんなでまとめた「人にやさしい町」になっているかどうかという視点で自分たちの町を調べていく。その活動を通して、自分の町の人に優しい工夫に気付くと共に、「みんなに優しくできるためにどんな心を大切にすればよいのだろう」という課題意識を高めたところで道徳科の授業に入るようにする。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、総合的な学習で学んだことを振り返り、「みんなに優しい町はどんな心を大切にするとできるのだろう」と思ったことを想起させ、「みんなに優しい」ということはみんなが親切にできる町だということに気付き、「親切にできるために大切な心を見付けたい」という課題意識をもたせる。

中心場面として、目の不自由な人が自動車にひかれそうになりうずくまったのを見たときの三宅さんが考えたことを取り上げる。自分も目をつぶって交差点に立ち、目の不自由な人になったつもりで考えていたからこそ、目が不自由な状態で道路を歩くことに恐怖を感じ、何とかしたいと思うようになったことを捉えさせたい。その際、三宅さんが目の不自由な人の気持ちを詳しく知ることができた理由について問うことで、総合的な学習での体験で感じた身体の不自由な人の思いを想起し、自分との関わりで、人を思いやる心について考えられるようにする。

展開後段では、展開前段で考えたことをもとに、自分のこととして相手の思いを考えて親切にできた体験についてワークシートに記入して発表するようにすることで、人に優しく接することができたときは、自分のこととして相手の思いを考えていたことを確かめることができるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で捉えた「自分のこととして相手の思いを考えて親切にしたい」という思いをもとに、総合的な学習「みんなにやさしい町」では自分たちの町をもっとみんなに優しい町にするために自分たちにできることを話し合う。道具や設備を作ることは自分たちには難しいが、相手を思いやる声かけや手助けなら自分たちにもできそうだと気付き、実践してみる。実践の中で、相手の思いを自分のこととして考えて親切にする方が、より相手のためになる親切となっていることを確かめていくことができるようにする。そして、自分たちの町をもっと「みんなにやさしい町」にするために今の自分たちが大切にしたいことをグループごとに「思いやりの町プラン」としてまとめて発表する。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

帰りの会で、これまでの関連的な道徳の学習全体を通して親切にすることについての自分を振り返る。自分の中の人を思いやる心や実際に人に親切にしたことなどの視点から、自分の人を思いやる心の変容を振り返りカードにまとめることで、人を思いやる心が深まってきたことに気付くことができるようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　相手の身になって

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心とする内容項目は、B　親切、思いやり「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」である。望ましい人間関係の構築には互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

中学年では、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして考えることによって相手のことを思いやり、親切な行為を自ら進んで行おうとする態度を養いたいと考える。

②児童の実態について

国語科と総合的な学習を通して児童は、体験を通して身体の不自由な人の思いや苦労を感じたり、町の中にあるいろいろな立場の人が住みやすくなる工夫について調べたりしている。しかし、みんなが住みやすい町にするために設備を整えたり、道具を作ったりした人の思いまではまだ考えることができていない。そこで、道徳科で点字ブロックを生み出した三宅精一さんの思いやりの心を考えることで相手のためになる思いやりの行為には、自分のこととして相手の思いを考えることが必要であることに気付くようにしていきたい。

③教材について

この教材は、発明家でもあった三宅精一が、目の不自由な人が自由に道路を歩くことができるようにと考えて点字ブロックを発明した話である。自ら目をつぶって道路を歩いたり、目の不自由な人の生活についての話をたくさん聞いたりしながら点字ブロックをつくった三宅精一の思いを考えることを通して、相手の困っている状況や思いを考えることで思いやりの気持ちが深くなり、親切にすることができるようになることに気付かせたい。

◇板書例

みんなにやさしい町
どんな心が大切？
「幸せの黄色い道」－三宅精一－

写真

めあて
親切にするために大切な心について考えよう。

目をつぶって道路を歩いてみようと思ったとき

・目の不自由な人の気持ちをわかりたい。
・自分が目の不自由な人になったつもりで考えないといい物ができない。

目の不自由な人がしゃがみこんだところを見たとき

・きけんすぎる。なんとかしなくてはいけない。
・目が不自由だと歩くことがこんなにこわいのか。
・みんな目の不自由な人のことを考えていない。
・目の不自由な人が安全に道ろを歩けるようにしたい。
・目の不自由な人の役に立ちたい。

目の不自由な人がしゃがんだ場面の挿絵

◇自分のこととして相手の思いを考えると相手の気持ちが分かりもっと親切にできるようになるんだな。
○自分のこととして相手の思いを考えて親切にできたこと

◇参考

三宅精一（1926～1982 年）。倉敷市に生まれる。点字ブロックを開発し、1967 年に岡山市原尾島の交差点に世界で初めて点字ブロックを設置した。その後生涯のほとんどを点字ブロックの普及に費やし、私財を投じて点字ブロックを各地に設置していった。

参考　ＣＤ「幸せの黄色い道～点字ブロック発祥の地　岡山～」
「白浪に向いて　三宅精一を語る」社会福祉法人日本ライトハウス　理事長　岩橋英行著

(3) ねらい

みんなに親切にするために大切な心について考える中で、自分のこととして相手の思いを考えると人に親切にできるようになることに気付き、相手の思いを考えながら、進んで親切にしていこうとする態度を養う。

(4) 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　人を大切にできる心について話し合い、めあてをつかむ。	○　総合的な学習でみんなに優しい町について考えて、どんなことを思いましたか。 ・人に優しくできる自分になりたい。 ・もっとみんなに優しい町にするにはどうしたらいいのだろう。	・総合的な学習を通してもった思いを問うことで、課題意識を想起しやすくする。
親切にするために大切な心について考えよう。		
2　「幸せの黄色い道　－三宅精一－」を読んで話し合う。	○　三宅さんは目をつぶり道路を歩いてみようとした時どんなことを考えていたのでしょう。 ・目の不自由な人の気持ちを分かりたい。 ・自分が目の不自由な人になったつもりで考えないといけない。 ◎　目の不自由な人がしゃがみ込んだのを見て、三宅さんはどんなことを考えたのでしょう。 ・危険すぎる。何とかしなくては。 ・みんな、目の不自由な人のことを全然考えていない。 ・目が不自由な状態で道路を歩くのは、こんなにおそろしいものなのか。 ・目の不自由な人が安全に歩けるようにしたい。	・教材への導入時に点字ブロックの歌を聞くことで、点字ブロックに興味をもちやすくする。 ・自分が目をつぶって道路を歩こうとしたときの三宅さんの気持ちを考えることで、相手の状況を理解しようとする思いの大切さに気付きやすくする。 ・目の不自由な人がしゃがみ込んだのを見たときの三宅さんの思いをワークシートに書くことで、自分の考えを表しやすくする。 ・みんなに親切にするために大切な心についてグループで話し合うことで、三宅さんが自分のこととして目の不自由な人の思いを考え深く理解したことについて捉えやすくする。
自分のこととして相手の思いを考えると、相手の気持ちが分かりもっと親切にできるようになるんだな。		
3　今までの自分を振り返る。	○　自分のこととして相手の思いを考えて親切にできたことがありますか。 ・下級生がけがをして、もし自分だったら重い物を持つのが大変だなと思ったからランドセルを持ってあげた。	・日々のくらし、総合的な学習等、具体的な場面を提示し、これまでの自分の思いやりの心を見つめることができるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　先生の話をします。	・自分のこととして相手の思いを考えて親切にできた教師の体験を聞くことで意欲を高める。
自分のこととして相手の思いを考え、普段の生活でも人に親切にしていきたいな。		
評価の観点	・相手の思いを自分のこととして考えることで人に親切にできるようになると気付くことができたか。 ・自分のこととして相手の思いを考えながら、人に親切にしていきたいという意欲を高めることができたか。	

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第４学年　**「蒜山だいこん」**

１　主題名　郷土のために

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

ねらいとする価値は、Ｃ　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。」である。郷土とは、自分が生まれたり育ったりした土地や地域であり、人が生きていく上で心のよりどころとなる等、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたり大きな精神的支えとなるものである。

中学年では、地域の行事や活動に興味をもち、積極的に関わろうとする態度を育てることが求められる。自分の地域には、人々が守り、伝えてきた行事や活動・事物があること、そして、そこには郷土を愛する人々の思いが込められていることに気付かせたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、地域での生活が活発になり、地域の行事や活動に興味をもつようになってきている。また、社会科や総合的な学習の時間の学習等を通して、地域の生活や環境の特色にも目が向けられ、郷土のすばらしさを実感できるようになってきている。しかし、先人の思いやそれを引き継ぐ人々の思いまでは気付いておらず、地域の一員として郷土のために関わっていこうとする意欲までには至っていない。

そこで、自分との関わりにおいて郷土のよさを捉えさせ、郷土・地域を大切にしようとする心を育んでいきたい。

(3) 教材について

たかしは、おじいさんから「蒜山だいこん」が生まれた経緯を聞く。その中で、蒜山の 70 年前の様子や入植した人々が蒜山のよさを生かした大根の栽培や畑の実験を繰り返し、苦労や工夫を重ねながら、夏の大根を栽培することに成功したことを知る。そして、蒜山の人々が大切にしてきた「蒜山だいこん」のよさをもっとみんなに知らせたいと思うようになるという内容である。

たかしの気持ちを考えることを通して、郷土の人々の思いを知り、郷土の一員として進んで関わっていこうとする心情を育てたい。

◇板書例

地域の行事　秋祭り、クリーン作戦

めあて
郷土を愛するために
大切な気持ちを考えよう。

蒜山だいこん

おじいさんとたかし

おじいさんの話を聞きたいと思った時のたかしの気持ち
・今まで考えたことがなかった。
・もっと知りたいな。

蒜山をはなれて行く人を見た時の谷本さんの気持ち
・みんなで蒜山で暮らしていけるようにしたい。
・何とか工夫して、みんなで蒜山で暮らしたい。

悩んでいる谷本さん

ようやく蒜山に大きな大根ができた時の谷本さんの気持ち
・蒜山のよさが見付かってよかった。
・蒜山のよさを生かすものが見付けられた。

大きく育った大根

大根がいつもよりおいしいと感じているたかしの気持ち
・今まで何も知らず食べていた。
・この大根には多くの人の苦労や思いが込められている。
・自分も郷土のため何かしたい。
・多くの人に蒜山だいこんのことを知ってもらいたい。

大根を食べているたかし

◇郷土の人々の思いを知り、進んで関わろうとする気持ちが大切。
○地域の行事等に参加した時

◇参考

1946 年食糧増産のため、蒜山開拓が始まる。1950 年農業試験場の調査・指導で土地改良が始まる。1953 年大根の試作が始まる。1961 年「蒜山地区みの早生だいこん出荷連合会」が結成。「蒜山だいこん」と命名される。

3　ねらい

郷土を愛するために大切な気持ちを考える中で、郷土の人々の思いを知り、自分から進んで関わろうとする気持ちの大切さに気付き、進んで郷土を大切にしようとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　地域の行事に参加した時のことを振り返り、めあてをつかむ。	○　地域の行事に参加して、どんなことを思いましたか。 ・クリーン作戦に参加したとき、地域のおじさんにほめてもらってうれしかった。 ・住んでいる郷土のことは大好き。 郷土を愛するために、大切な気持ちを考えよう。	・地域の行事等にどのような気持ちで参加していたかを振り返り、どんな気持ちが、郷土を愛することにつながるのか投げかけ、めあてをもちやすくする。
2　「蒜山だいこん」を読んで話し合う。	○　おじいさんの話を聞きたいと思うたかしはどんなことを考えているでしょう。 ・今まで蒜山だいこんの事を考えた事がなかったな。もっと知りたいな。 ○　谷本さんは、せっかく入植しても蒜山を離れていく人を見てどんなことを思ったでしょう。 ・蒜山が好きだ。何とか工夫してみんなが蒜山で暮らせるようにしたい。 ○　ようやく蒜山で大きく育った大根を見た時、谷本さんはどんなことを思ったでしょう。 ・これで、みんなが蒜山で暮らせる。 ・蒜山のよさを生かすものが見付けられた。大切に育てたい。 ◎　大根がいつもよりおいしいと感じているたかしはどんなことを考えているでしょう。 ・今まで何も知らずに食べていた。 ・この大根には多くの人の苦労や思いが込められていたんだ。 ・地域の人たちが蒜山だいこんを大切に思い、ずっと盛り上げようとしていたんだ。 ・自分も郷土のために何かしたい。 郷土の人々の思いを知り、自分から進んで関わろうとする気持ちが大切だな。	・「蒜山の人はどうして大根が好きなんだろうね。」と問い、たかしの気持ちに共感しやすくする。 ・谷本さんの気持ちを問い、蒜山の地を愛し、入植した人々と共に蒜山で暮らしていきたいと願う谷本さんの気持ちに気付けるようにする。 ・苦労が実った谷本さんの気持ちを問い蒜山の特色を生かした特産物として「蒜山だいこん」を大切に育てたいという思いに気付くようにする。 ・ワークシートに記述することで、いつも食べていた大根をおいしく感じた根拠を深く考えることができるようにする。 ・多くの人に蒜山だいこんのことを話したいと思うようになったのはなぜかと問い、地域の人々の思いを知り、たかしにとって「蒜山だいこん」が特別な大根になってきていることや、地域の一人として郷土に関わりたいと思うようになってきていることに気付けるようにする。
3　今までの自分を振り返る。	○　郷土の人々の思いを考え、自分から地域の行事等に参加できていましたか。 ・お祭りに行くと地域の人が喜んでくれた。 ・郷土の人の思いまでは気付けていなかった。分かるようになりたいな。	・児童が地域で活動している写真等を提示することで、児童が振り返る助けとする。
4　地域の方の話を聞く。	○　地域の方のお話を聞きましょう。 郷土の人々の思いを知って、地域の行事にも進んで参加していきたいな。	・地域の方に地域のよさや地域への思い、児童への願い等を話してもらい意欲を高める。
評価の観点	・郷土の人々の思いを知り、進んで郷土に関わろうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。 ・郷土や地域の行事や活動に進んで参加しようとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科との関連

特別活動「地域のクリーン作戦」「神社等の清掃活動」等を通して、地域に引き継がれてきた行事を知ったり、地域の人々の願いや思いに直接触れたりすることで、郷土を大切にしようとする心情や態度をさらに育てる。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第４学年　**「受けつがれる心　－岡崎嘉平太－」**

１　主題名　世界の人と仲よく

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、C　国際理解、国際親善「他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。」である。グローバル化が進展する今日では、国際理解や国際親善は重要な課題になっている。これらの課題に対応できるようにするためには、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うようにすることが求められている。それぞれの国には独自の伝統と文化があり、自分たちの伝統と文化に対して誇りをもち、大切にしているからである。そのことを、我が国の伝統と文化に対する尊敬の念と併せて理解できるようにする必要がある。

そこで、中学年では、それぞれの共通点や相違点、よさなどに目を向けることを通して、他国の人々や文化に関心をもち、世界の人々との親善を図ろうとする態度を養いたいと考える。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、我が国が様々な国々と関わりをもっていることに気付くようになる。また、自分たちの身の回りには多様な文化があることやそれらの文化の特徴などについて少しずつ理解や関心が高まってくる。しかしながら、言葉や習慣の違いから、どう関わってよいのか戸惑う場面もしばしば見られる。そこで、自国と他国の文化の共通点やよさ、他国の人々と関わる喜びなどを感じることを通して、他国の人々と親善を図ろうとする態度を養いたい。

(3) 教材について

岡山県吉備郡大和村（現在の加賀郡吉備中央町）に生まれた岡崎嘉平太は、小さい頃から中国の人々や文化に親しみ、自分の人生をかけて日中の友好に尽くした人物である。

学校の「まちたんけん」で地元の大和山（おおわさん）に登った主人公は、山頂にある岡崎嘉平太の「望郷」という石碑に気付く。興味をもった主人公は家に戻り中学生の姉に嘉平太のことを尋ねてみる。そして姉から、嘉平太が子どもの頃から中国の人と仲よくしていたことや、現在も吉備中央町と中国の町の中学生が毎年のように交流をするきっかけをつくったことを教えられる。その話を聞きながら、去年自分の家にホームステイに来た中国からの留学生である陳さんとの日々を改めて思い出す、という話である。

本時では、姉の岡崎嘉平太の話や、陳さんとの生活を思い出している場面を中心場面にし、岡崎嘉平太の思いや、陳さんとの交流で感じ取った思いについて考えることを通して、言葉や文化が違っても、分かり合おうとする気持ちをもって関わることの大切さに気付かせたい。

◇板書例

受けつがれる心　－岡崎嘉平太－

めあて
他国の人と仲よくしていくために大切な気持ちを考えよう。

岡崎嘉平太の石ひを見ながら話を聞いたとき

石碑の写真

・どんな人？
・日本と中国の交流のために人生をかけてすごい。

姉の話を聞いたとき

・なかよくなるためにもっと中国のことを知ろうと思って百回も行ったところがすごい。

姉の話や陳さんとの交流を思い出しながら

・思いが伝わってうれしかったな。
・中国のことがわかって楽しかったな。
・思いをつたえ合うことが大切だな。

◇他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちが大切だな。

○他国の人と接したときのこと

◇参考

岡崎嘉平太（1897～1989 年）。吉備郡大和村（現在の加賀郡吉備中央町）生まれ。実業家として日中の平和友好条約の締結に尽力する。

3　ねらい

他国の人々と仲よくしていくために大切な気持ちを考える中で、他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちの大切さに気付き、進んで他国の人々と関わろうとする態度を養う。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　岡崎嘉平太について聞き、めあてをつかむ。	○　岡崎嘉平太という人を知っていますか。 ・岡崎嘉平太さんは、どんな人かな。 他国の人と仲よくしていくために大切な気持ちを考えよう。	・嘉平太の写真や地図を見せながら、同じ岡山県出身の人であり、日中の友好に尽くした人であることを話した上で、小さい頃から中国の人と仲よくしていたことを話題にし、めあてをもちやすくする。
2　「受けつがれる心 －岡崎嘉平太－」を読んで話し合う。	○　岡崎嘉平太の石碑を見ながら話を聞いたとき、わたしはどんなことを思ったでしょう。 ・どんな人だったんだろう。 ・日本と中国が仲よくなるように自分の人生をかけたなんてすごいな。 ○　姉の話を聞いて、わたしはどんなことを思ったでしょう。 ・仲よくなるためにもっと中国を知ろうと思って百回も行ったところがすごいな。 ◎　姉の嘉平太さんの話や陳さんとの交流を思い出しながら、わたしはどんなことを考えたでしょう。 ・中国のいろんなことが分かったよ。 ・一生懸命伝えようとしたら思いが伝わって、とてもうれしかったな。 ・お互いに分かり合うことが大切だな。 他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちが大切なんだな。	・石碑の写真を示しながら、嘉平太自身が日本と中国の友好を願いながら石碑を建立したことを補説し、日中の友好に尽くそうとした嘉平太にひかれている主人公に共感することができるようにする。 ・「わたしは嘉平太さんのどんなところがすごいと思ったのかな。」と問いかけ、嘉平太の生き様に深く感銘を受けている主人公の思いに目が向くようにする。 ・最初は緊張して陳さんに話しかけることができなかったことにふれ、他国の人々と関わることに躊躇しがちな気持ちについて考えることができるようにする。 ・「たくさんの人と仲よくなりたい」と思うようになった根拠を問い、ペアや全体で話し合うことを通して、嘉平太の思いを受け継いで、他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちの大切さに気付けるようにする。
3　今までの自分を振り返る。	○　他国の人のことを理解しようとしながら接したことがありますか。 ・ALT の先生との学習で、とても緊張したけど話しかけてみたよ。 ・地域のお祭りで他国の人と話せて、思いが通じたときうれしかったよ。	・他国の人のことを理解しようとしながら接することができたときのことを話し合い、他国の人と仲よくしていくことの楽しさや喜びを感じ取ることができるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　先生の話を聞きましょう。 他国の人のことを理解しようとしながら関わり、仲よくしていきたいな。	・教師の体験を聞くことで、他国の人々のことを理解し、進んで関わろうとする意欲が高まるようにする。
評価の観点	・他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちの大切さに気付くことができたか。 ・他国の人のことを理解しようとしながら、進んで関わろうとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

日常生活の中で ALT の先生と交流する機会を設け、積極的に関わろうとした姿を称揚する。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第５学年　**「日本女子スポーツの夜明け　－人見絹枝－」**

１　主題名　困難に立ち向かう強さ

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ａ　希望と勇気、努力と強い意志「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」である。自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。また、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く態度を養いたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、先人や著名人の生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする時期であると言われる。一方、自分自身に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期だからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。人見絹枝の生き方にふれ希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により積極的で前向きな自己像が形成されるようにしていきたい。

(3) 教材について

日本人女性として初めてオリンピックに出場した郷土の偉人、人見絹枝の話である。絹枝は、自ら陸上競技で世界記録を出すだけでなく、日本の女子選手を育てるために努力を重ねる。当時の日本の時代背景を考えると、絹枝の夢の実現への道のりは相当厳しいものだったことが想像できる。心が折れてくじけそうになった、人間らしい心の弱さに十分共感させながら、それでもやり抜いた絹枝の意志の強さを感じ取らせたい。

◇板書例

自分の夢や目標
・水泳の大会で入賞したい。
・将来の夢に向かって今からできることをしている。

めあて
夢をかなえるために大切な気持ちは何か見付けよう。

日本女子スポーツの夜明け　－人見絹枝－

絹枝の写真

心ない手紙を読んだとき
・分かってもらえなくて悲しい。
・仲間のためにもくじけるわけにはいかない。
・どうしても女子スポーツをさかんにしたい。
・これが私の使命なんだ。あきらめなければ、絶対にかなえられる。

国旗を掲げて入場したとき
・私の夢がついにかなった。
・あきらめなくてよかった。

◇強い意志をもち、いつも前向きに取り組もうとする気持ちが大切。

○目標をもって強い気持ちで取り組んできたこと

◇参考

人見絹枝（1907～1931 年）。岡山県出身の女子陸上競技選手。岡山高等女学校を経て、1925 年、二階堂体操女塾（現 日本女子体育大学）卒業。不世出のスプリンターといわれ、日本の女子陸上競技の向上に貢献した。

3　ねらい

夢をかなえるために大切なのはどんな気持ちかを考える中で、強い意志をもち常に前向きに取り組んでいこうとする気持ちが大切なことに気付き、困難があっても自分の夢や目標に向かってくじけずに努力していこうとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　自分の夢や目標について考え、めあてをつかむ。	○　みなさんはどんな夢や目標がありますか。また、そのために努力をしていますか。 ・水泳の大会で入賞したい。 ・自分の将来の夢に向かって頑張っている。 ○　女子スポーツ選手が活躍する世の中を目指し貢献した、人見絹枝という人を知っていますか。 夢をかなえるために大切な気持ちは何か見付けよう。	・自分の夢や目標に向けて取り組んできたことを想起することで価値への方向付けをする。 ・女子スポーツ選手が多く活躍する今の状況を知らせ絹枝の生き方への関心を高める。
2「日本女子スポーツの夜明け－人見絹枝－」を読んで話し合う。	○　心に残ったことはどんなことですか。 ・周りの人にあれだけ言われても練習を続けてすごい。 ・女子がオリンピックに出るのが困難な中で走り続けた精神力がすごい人だ。 ◎　心ない手紙を読みながら絹枝はどんなことを思ったでしょう。 ・分かってもらえなくて悲しい。 ・仲間のためにくじけるわけにはいかない。 ・どうしても女子スポーツを盛んにしたい。 ・これが私の使命なんだ。あきらめなければ絶対にかなえられる。 ○　国旗を掲げて入場した絹枝はどんな気持ちだったでしょう。 ・私の夢がついにかなった。 ・あきらめなくてよかった。 強い意志をもち、いつも前向きに取り組もうとする気持ちが大切だな。	・心に残ったことを話し合う中で、中心場面の絹枝の気持ちに目が向くようにする。 ・ワークシートに書くことで、夢に向かい頑張る絹枝の気持ちや、その努力を分かってもらえない悔しさなどを、多面的に考えられるようにする。 ・「絹枝は、どうして頑張れたのか。」と問うことで、女子スポーツ振興を成し遂げようとする強い気持ちに気付けるようにする。 ・後輩を引き連れて入場することができたときの絹枝の気持ちを考えて話し合うことで、絹枝の喜びを感じ取ることができるようにする。
3　目標に向かって自分が努力してきたことについて振り返る。	○　今まで、夢や目標に向かって強い気持ちで取り組んできたことがありますか。 ・水泳や陸上練習で苦しくても頑張った。 ・投げ出したい時もあったが、目標を達成するためにふんばった。	・今までの自分を振り返りワークシートに書くことで、夢や目標に力強く向かっていこうとする気持ちを高める。
4　教師の話を聞く。	○　自分の夢に向かって前向きに頑張っている人がいます。その人のことを話します。 自分も夢や目標に向かって強い気持ちをもって前向きに努力していきたいな。	・教師の説話により、夢に向かって強い意志をもち前向きに取り組んでいくことの大切さに気付くことができるようにする。
評価の観点	・自分の夢や目標に向かって強い意志をもち前向きに取り組んでいくことの大切さに気付くことができたか。 ・自分の夢や目標に向かって強い気持ちをもち前向きに努力していこうとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科との関連

体育科の水泳や陸上などにめあてをもって取り組み、振り返りを行う。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　　第５学年　**「村の人々のために　－山田方谷－」**

１　主題名　郷土のために

２　主題設定の理由

⑴ 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｃ 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。」である。自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上での大きな精神的な支えとなるものである。様々な体験や主体的な関わりを通して、先人の努力を知り、国や郷土をよりよくしていこうとする態度を育んでいきたい。

⑵ 児童の実態について

この時期の児童は、我が国の産業や歴史などの学習を通して、産業の様子や発展に尽くした先人の業績や文化遺産に目が向けられるようになる。しかし、それらが先人のどんな思いでつくられたものであるかにまでは、目が向いていない。このことから、自分の郷土で受け継がれている祭りなどの伝統や文化を大切に思い、更に発展させていこうとする態度を育てるとともに、先人がこれまで大切に守ってきた伝統や文化や郷土を受け継いで発展させていく役割が自分にもあることに気付き、努力していこうとする気持ちを育てたい。

⑶ 教材について

高梁市に生まれた山田方谷。近年、財政立て直しの業績が様々なメディアを通して知られることが多くなってきた。学者でありながら、財政を立て直した方谷の真の願いは、郷土備中松山藩に暮らす民が豊かになることであった。しかし、現実には武士の反発に合うなど苦しい状況にも陥っている。そのようなときに、民への慈しみがあったからこそ苦しい状況でも立ち向かっていくことができたことや、人間らしい葛藤があったことに気付かせたい。

◇板書例

村の人々のために　－山田方谷－

写真（山田方谷）

めあて
方谷を支えた気持ちは何だったのか考えよう。

一人で悩んでいるとき

・自分にそんな大きな事ができるのか。
・せっかくの学問を生かすチャンスが来た。
・苦しんでいる藩の人々のために今、自分がやらなくては。逃げてはいけない。

場面絵

じっと見つめているとき

・あのとき逃げ出さないでよかった。
・民が幸せにくらしてくれることが何よりうれしい。

写真（郷倉）

◇郷土の人々を幸せにしたいという気持ちが大切だな。

○郷土と自分について考えたこと

◇参考

山田方谷（1805～1877 年）。備中国松山藩領阿賀郡西方村（現在の高梁市中井町西方）に生まれる。幼いころは神童と呼ばれた。成人した後、備中松山藩の藩校での教育を任されるようになる。幕末、藩主板倉勝静に仕え、藩民のための改革を成し遂げる。藩の農民から人望が厚かった。

3　ねらい

郷土のために尽くした人の気持ちについて考える中で、自分の郷土や郷土に住む人々の幸せを考える気持ちが大切であることに気付き、先人から受け継がれてきた文化や郷土を大切にしようとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　山田方谷について話し合い、めあてをつかむ。	○　「山田方谷」についてどんなことを知っていますか。 ・藩のために借金を返して10万両ためた人。 ・「備中ぐわ」や「ゆべし」を作った人。 方谷を支えた気持ちは何だったのか考えよう。	・「備中ぐわ」「ゆべし」の実物や写真を紹介し興味関心を高める。 ・これらは方谷が工夫して作ったものであることを伝え、方谷を支えた気持ちは何だったのか考えようという課題意識へと導くようにする。
2　「村の人々のために　－山田方谷－」を読んで話し合う。	○　困っている民の様子を見たり聞いたりしたときの方谷はどんな気持ちだったでしょう。 ・こんなひどい状況、早くどうにかしなくては。 ・武士でない自分にどうにかできるわけがない。 ◎　勝静に頼み込まれ一人悩む方谷は、どんなことを考えていたでしょう。 ・自分にそんな大きな事ができるのか。 ・せっかくの学問を生かすチャンスだ。 ・苦しんでいる藩の人々のために、今、自分がやらなくては。逃げてはいけない。 ・どうしても藩の人々の暮らしを楽にしたい。 ○　笑顔で働く民の姿をじっと見つめる方谷はどんなことを思っていたでしょう。 ・あのとき逃げ出さないでよかった。 ・民が幸せに暮らしてくれることがうれしい。 自分の郷土や、郷土の人々の幸せを常に考える気持ちが大切だな。	・民の暮らしぶりを知り、自分にできることはないかと胸を痛める方谷の気持ちに共感できるようにする。 ・思い悩む方谷の気持ちをワークシートに書くことで、多面的に考えられるようにする。 ・「何のために学問をしてきたのか。」と問い、葛藤しながらも民の暮らしを豊かにしたいと気持ちを奮い立たせる方谷の気持ちに気付くことができるようにする。 ・笑顔で働く民の姿を見つめている方谷の気持ちを問うことで、民のために改革を進めてきた方谷の満足感や民のことを思って行動することの尊さに気付くことができるようにする。
3　今までの自分の郷土への関わりを振り返る。	○　今までの自分は郷土を思う気持ちがどれくらいあったかを振り返ってみましょう。 ・今までは、それほど郷土のことを考えて行動していなかった。 ・自分の地域に伝わる踊りや祭りなどを大切に受け継いでいきたい。	・「郷土」について感じたことやこれまでの自分の行動を振り返ってワークシートに書くことで、先人から受け継がれてきた文化や郷土を大切にしようとする意欲を高める。
4　教師の話を聞く。	○　郷土のために尽くした人物を紹介します。 これまで受け継がれてきた郷土の文化をこれからも大切にしていきたいな。	・教師の説話により、郷土や文化を大切に受け継ごうとする意欲を高める。
評価の観点	・郷土の人々の幸せを考える気持ちが大切だと気付くことができたか。 ・先人から受け継いできた伝統や文化を大切にしようとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科との関連

総合的な学習の時間に郷土のために尽くした人物について調べたり伝統や文化を受け継いでいる方の話を聞いたりして思いに直接触れることで、郷土や文化を大切にしようとする心情や態度をさらに育む。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第５学年　**「文化の発展のために　－大原孫三郎－」**

１　関連的な道徳の学習のテーマ　郷土を愛する心

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、総合的な学習の時間「郷土の宝を見付けよう」や日々のくらしの中での「郷土の宝を守ろう」の取組などと関連を図りながら学習を進めることで、郷土の伝統と文化を守り大切にしようとする態度を養う。

３　構想図（９月下旬～10月上旬）

【日々のくらし】

朝の会スピーチ
「地域で大切にされている場所・人・イベントなどを紹介しよう」
・〇〇祭り　・〇〇公園
・登下校見守りの〇〇さん
・子ども会　等

【道徳科】　【各教科等】

総合的な学習の時間
郷土の宝を見付けよう

「〇〇先生の話を聞こう」
地域の伝統文化についての話を聞く。　支援１

「郷土の宝をさがそう」
郷土の宝（伝統的な行事や文化等）を調べ、郷土のために尽くした人々について知る。　支援２

道徳科
主題名　文化の発展に尽くす
内容項目　Ｃ　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心をもつこと
教材名「文化の発展のために－大原孫三郎－」
ねらい　我が国や郷土の文化の発展に貢献した人々の願いに気付き、伝統や文化をさらに発展させていこうとする心情を育てる。　支援３

「郷土の宝を守ろう」
郷土の宝をより発展させるために関わり方を工夫したり自分にできそうなことを考えたりして実行する。　支援４

「郷土新聞を作ろう」
学習して分かったこと、感じたことを振り返って、新聞にまとめ、友達や保護者、地域の人に紹介する。　支援５

【児童の意識】

・自分たちの地域の伝統や文化は、多くの人々の努力や工夫でできてきたんだな。

・郷土にはたくさんの宝があるんだな。郷土を発展させてきた人々には、どんな気持ちがあったのだろう。

・郷土の文化の発展を心から願って、郷土のために努力したんだな。自分にも何かできることがあるかな。

・郷土の行事を守ることは、郷土の発展につながっているんだな。

・郷土にあるたくさんの伝統や文化を大切にしていきたいな。

4　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

郷土の伝統や文化、歴史に関する話を聞く機会を設ける。地域にある伝統行事や古くからある寺社などについて詳しい方を招き、話を聞くことで、身近な伝統文化について考えていこうとする構えがもてるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

「郷土の宝を見付けよう。」では、郷土にはどんな宝（文化財、施設、産業、伝統文化等）があるかを調べる活動を行う。それぞれの宝がどのようにつくられ守られてきたものなのかという視点で声かけをし、郷土の発展に寄与した人々の思いに関心をもつことができるようにし、「郷土を発展させてきた人々にはどんな気持ちがあったのだろう。」という課題意識につないでいく。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、「郷土の宝を見付けよう」で見付けた宝について話をさせ、「郷土を発展させてきた人々にはどんな気持ちがあったのだろう。」という課題意識をもてるようにする。

中心場面として、「『金持ちの道楽だ。』などのかげ口を言われていたときの孫三郎の気持ち」を取り上げる。自分の財産を美術館建設のために費やすことについて、迷いや不安があった孫三郎の気持ちにも十分共感させ、それでもあきらめなかった郷土発展への強い思いを、支援２で見付けた郷土の宝と重ね合わせながら、しっかりと考えさせたい。

展開後段では、支援２で調べた郷土の伝統行事への自分の今までの関わり方を振り返り、これからの生き方につないでいけるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で捉えた「郷土の伝統や文化を大切にし、さらに発展させたい。」という思いをもとに、支援２で自分が調べた郷土の伝統行事への関わり方を工夫する。行事に参加する、実際にその場所に行ってみるなどの方法を考えて実行する中で、伝統を受け継いできた人々の思いや願いを実感し、さらに発展させていく方法を考えるなどして、捉えた道徳的価値を確かにできるようにする。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

郷土に対する自分の思いを込めた郷土新聞をまとめることで、これまで気付いていなかった郷土の素晴らしさを感じている自分に気付くことができるようにする。友達と発表し合ったり、保護者・地域にも発信したりすることで、伝統文化について語り合う機会を増やし、自分がこの伝統を受け継いでさらに発展させるよう努めていく態度を養うようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　文化の発展に尽くす

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心とする内容項目は、C「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。」である。自分が生まれ育った郷土は、生きる上での大きな精神的な支えとなるものである。そういった郷土の伝統を継承することは、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた習慣や芸術などを大切にし、それらを次代に引き継いでいくということである。過去から現在に至るまでに育まれた我が国や郷土の伝統と文化に関心をもち、それらと現在の自分との関わりを理解する中から、我が国や郷土の伝統と文化を大切にする心は芽生えてくるのである。

②児童の実態について

関連的な道徳の学習の中で児童は、朝の会のスピーチや総合的な学習「郷土の宝を見付けよう」などの活動を通して、郷土にはたくさんの伝統文化やそれに関わる人々が多く存在することを意識できるようになってきている。しかし、それらの「郷土の宝」に込められた人々の思いにまでは、考えが及んでいるとは言えない。そこで、そうした優れた「郷土の宝」に込められた人々の思いに気付き、自分との関わりで考え、伝統や文化を愛し、さらに発展させていこうとする気持ちを育てるようにしたい。

③教材について

この教材は、大原孫三郎が大原美術館を建設することを志した信念と美術館が完成して今日に至るまでの経過や苦労したことについて孫三郎の心情を中心に書いたものである。美術館の建設を決心した背景には、自分の財産を人々のために役立てたいという孫三郎の信念がある。そうした孫三郎の強い思いを自分と重ね合わせて考えられるようにすることで、我が国や郷土の発展に尽くした先人の願いに気付かせ、伝統や文化をさらに発展させていこうとする心情を育てたい。

◇板書例

わたしたちの郷土の宝
・〇〇神社　・〇〇祭り

めあて
郷土を発展させてきた人々にはどんな気持ちがあったのか考えよう。

文化の発展のために－大原孫三郎－

孫三郎の写真

大原美術館の外観

展示会に集まった人々を見た時

・芸術は人々の役に立つのだ。
・美術館を建てたい。

「金持ちの道楽だ。」などのかげ口を聞いた時

・私の考えは間違っていたのか。
・他のことにお金を使う方がよかったのか。
・美術館の完成は人々のためにきっと役に立つ。

中心場面の絵

◇郷土の人々の役に立ち、発展を強く願う気持ちが大切。

〇地域の文化を発展させるために自分にできること

◇参考

大原孫三郎（1880～1943年）。岡山県窪屋郡倉敷村（現在の倉敷市）生まれ。倉敷紡績（クラボウ）、中国合同銀行（中国銀行の前身）等の社長を務め、大原財閥を築き上げる。社会、文化事業にも熱心に取り組み、大原美術館以外にも、倉紡中央病院（現・倉敷中央病院）等を設立した。

(3) ねらい

郷土を発展させてきた人々の気持ちを考える中で、郷土の役に立ちたい、発展させたいという強い願いをもつことの大切さに気付き、郷土の伝統や文化を愛し、さらに発展させていこうとする心情を育てる。

(4) 展開　　○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　郷土の伝統文化の発展に寄与した人物について想起し、めあてをつかむ。	○　郷土の伝統文化を調べてみてどうでしたか。 ・今まで気付かなかったことが分かった。 ・長い年月、たくさんの人が守り続けているものがあった。	・郷土の伝統文化について調べて分かったことを出し合い、「郷土を発展させてきた人々にはどんな気持ちがあったのだろう。」という課題意識をもつことができるようにする。
郷土を発展させてきた人々にはどんな気持ちがあったのか考えよう。		
2　「文化の発展のために－大原孫三郎－」を読んで話し合う。	○　展覧会に集まった人々を見て、孫三郎はどんなことを考えたでしょう。 ・いつでも名画が見られるように、美術館をつくろう。 ・自分の財産を世の中のために使いたい。 ・西洋美術館は人々の役に立つ。 ◎　「金持ちの道楽だ。」等の陰口を孫三郎はどんな気持ちで聞いていたのでしょう。 ・自分のやっていることはまちがっているのだろうか。 ・もっと他のことにお金を使う方がよかっただろうか。 ・美術館の完成は、きっと役に立つからあきらめたくない。 ・文化の発展は人々の教育に役に立つ。 ・人々の役に立つことをするのが自分の役目だ。	・日本に西洋美術館がない当時の状況を説明することで、国民の教育のために美術館を建設し、倉敷を文化の中心地にしたいという孫三郎の思いを捉えさせる。 ・陰口を言われたときの孫三郎の気持ちをワークシートに書くことで、貧しい暮らしに耐える中で不安になることもあった孫三郎に共感させる。 ・それでも美術館をあきらめなかった孫三郎を支えたものは何だったのかと問いかけ、郷土への強い思いを考えられるようにし、決して信念を曲げずにやってきた孫三郎の思いが、今の大原美術館の繁栄につながっていることに気付かせる。
郷土の人々の役に立ちたい、郷土を発展させたいという強い気持ちをもつことが大切だな。		
3　郷土のことを考えた気持ちについて振り返る。	○　今まで郷土を大切に思い、発展を願う気持ちでやってきたことがありますか。 ・地域の祭りに参加していたが、地域の発展について考えたことはなかった。 ・実際に文化施設に行って、何か役に立てることを考えたい。	・自分が調べた郷土の伝統文化を振り返り、今までの自分の郷土への思いを話し合うことで、郷土のために役立ちたいという意欲につなげる。
4　教師の話を聞く。	○　郷土にある伝統文化を紹介します。	・郷土の伝統文化の背景にある歴史、人々の願いなどを紹介し、実践意欲を高める。
郷土の伝統や文化を大切にしたり発展させたりするために、自分にもできることを見付けて実行していきたいな。		
評価の観点	・郷土の文化の発展に貢献した人々が、郷土の役に立ち発展させたいという強い願いをもっていることに気付くことができたか。 ・郷土の伝統や文化を愛し、さらに発展させていこうとする意欲を高めることができたか。	

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第６学年　**「鏡獅子　－平櫛田中－」**

１　主題名　やり抜く力

２　主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、Ａ　希望と勇気、努力と強い意志「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。」である。児童が一人の人間としてよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切である。そのためには、目標をもってその達成に向けて粘り強く努力し、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。ただ漫然と努力するのではなく、児童がより高い目標を立てたり、その実現を目指して自分としての夢や希望を掲げたりして、前向きな生き方ができるようにする態度を養いたい。

(2) 児童の実態について

高学年の児童は、高い理想を求め、先人や著名人の生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする時期であると言われる。一方で、自分に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期だからこそ、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、夢を実現した平櫛田中の生き方にふれ、希望をもつことの大切さや希望をもつがゆえに直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えさせたい。

(3) 教材について

井原市出身の平櫛田中は、明治～昭和にわたって多くの困難や障害を乗り越え、木彫一筋に生きた彫刻家である。本教材は、田中の晩年の大作「鏡獅子」制作にまつわる話である。

歌舞伎座の名優、六代目菊五郎の「鏡獅子」の舞を見て、そのポーズを彫りたいと決めた平櫛田中。試作を重ねる中で田中は、生活の苦しさや健康上の問題など数々の困難に見舞われるが、制作を続け、ついに22年の年月を経て完成を迎える。

指導にあたっては、困難に打ち勝つことができた田中の心の中をしっかりと考えさせ、鏡獅子を完成させたいという夢に対する強い思いに気付かせたい。

◇板書例

鏡獅子　－平櫛田中－

鏡獅子の写真

書

めあて
目標を実現させるにはどんな気持ちが大切か考えよう。

鏡獅子を制作しようと決めたとき
・この力強さを表現したい。
・木彫の仕上げとして完成させたい。

鏡獅子の前で目を閉じて考えにふけっていた時
・なかなかうまく表現できない。
・自分の力はこれまでか。
・どんなことがあってもやり遂げたい。
・くじけずに自分の目指すものを完成させたい。
・自分が決めたことを最後までやり遂げてみせる。

挿絵

完成した鏡獅子を前にした時
・長年の夢が達成できてよかった。

◇目標を実現させるためには、困難があってもやり抜く強い心と実行力が大切。

○目標をやり遂げてよかったこと

◇参考

平櫛田中（1872～1979年）。岡山県後月郡（今の井原市）生まれ。20才を過ぎたころから木彫を学ぶ。代表作「鏡獅子」は、東京国立近代美術館に寄贈され、国立劇場に展示されている。1962年文化勲章授与。

3　ねらい

自分の目標を実現させるための気持ちについて考える中で、困難があってもくじけずにやり抜く強い意志と実行力が大切なことに気付き、より高い目標に向かってくじけずに努力しようとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　平櫛田中について知り、めあてをつかむ。	○　この彫刻や書をつくった人を知っていますか。 ・力強い彫刻だな。仕上げるのは大変そうだ。この詩はどういう意味だろう。	・鏡獅子の写真と平櫛田中の「いまやらねばいつできる…」の書を見せ、田中の生き方に興味をもたせる。 ・鏡獅子を完成させるまでに 20 年以上の月日を費やしたことを知らせ、課題意識をもちやすくする。
自分の目標を実現させるにはどんな気持ちが大切か考えよう。		
2「鏡獅子 −平櫛田中−」を読んで話し合う。	○　鏡獅子を制作しようと決めたのはどんな気持ちからでしょうか。 ・この力強さを何としても表現したい。 ・自分の目指す木彫の仕上げとして、よいものを創りたい。 ◎　目を閉じた田中は、長い時間どんなことを考えていたのでしょうか。 ・お金もなく、年月ばかり過ぎていくのはどうしたものか。 ・なかなかうまく表現できない。 ・自分の力はこれまでか。 ・困難はあるが、自分の目指すところまでやり遂げたい。 ○　完成した鏡獅子を前に、田中はどんなことを思ったのでしょうか。 ・自分の長年の夢が達成できてよかった。 ・「今やらねば…」の気持ちで努力して、やり抜いてよかった。	・鏡獅子制作のために一日も休まず歌舞伎座に通う田中の様子から、木彫の集大成として自分の夢を実現しようとする強い思いを考えられるようにする。 ・目を閉じた田中が、制作再開に向かうまでの気持ちをワークシートに書くことで、困難を乗り越えた田中の心の底にある夢に対する強い思いと実行力に気付くことができるようにする。 ・試作を重ねてもなかなか思うようにいかない難しさ、周りの人に分かってもらえない苦しさ、病気になったつらさを自分のこととして考え、困難な状況を乗り越えた田中の心の底にあった思いを捉えることができるようにする。 ・夢を実現したときの達成感、充実感を鏡獅子の写真や、田中の書と重ね合わせて考えられるようにする。
目標を実現させるためには、困難があってもくじけずにやり抜く強い意志と実行力が大切だ。		
3　これまでの自分を振り返る。	○　自分の目標を、最後までやり遂げてよかったことはありますか。その時どんな気持ちでしたか。 ・習い事でなかなかうまくいかなかったが練習を重ね目標を達成できてよかった。	・目標達成のために努力したことを想起させ、くじけずに頑張ったことの尊さと、それを支えた思いについて考えられるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　先生にも目標に向かって努力したことがあります。	・目標をもってくじけずに頑張った経験を話し、実践意欲を高めたい。
自分もより高い目標に向かってくじけずに努力していきたいな。		
評価の観点	・目標を実現させるためには強い意志と実行力が大切だと気付くことができたか。 ・より高い目標をもって努力しようという意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

行事や学習に取り組む際に、自分の目標を設定して振り返る工夫などをし、捉えた道徳的価値を体験を通して実感できるようにする。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第６学年　**「閑谷学校への願い　－津田永忠－」**

１　主題名　地域のためにできること

２　主題設定の理由

⑴ 内容項目について

中心とする内容項目は、Ｃ　伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛すること。」である。この時期の児童は、我が国の国土や産業、歴史などの学習を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産に目が向けられるようになることから、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする態度を育てることが大切である。

自分から積極的に地域に目を向け、様々な人々との交流を深めながら、地域のために自分には何ができるかを考えたり、地域文化の発展に努めようとしたりする心構えを育てたい。

⑵ 児童の実態について

児童が生活している地域社会においては、周囲に多くの文化財があり、たびたびそれらに接したり伝統的行事に参加したりしている。しかし、多くの場合、その場限りの楽しみにしてしまい、郷土の歴史や文化に無関心であったり、先人の苦労や周囲の人々から受けている恩恵に気付かないままでいたりする。

郷土の自然や文化についての理解が深まるこの頃に、我が国の教育の発展を願ってつくられ、しかも、現在も教育の場として生き続けている閑谷学校を取り上げ、歴史的事実を正しく理解させた上で、郷土の文化や伝統を大切にし、これらを受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚して、発展に努めていこうとする心構えを育てたい。

⑶ 教材について

今から約 300 年前、日本最古の庶民教育の場として閑谷の地に学校が建設されるまでの物語である。学校奉行の津田永忠は、「永久に残る学問の殿堂」をつくりたいという岡山藩主・池田光政の願いを受け、閑谷学校の建設に着手する。しかし、飢饉による財政難、藩校の一時閉鎖、光政の逝去などの多くの困難に直面し、学校建設の継続を思い悩む永忠の姿が描かれている。身分を問わず、皆が学問に励むことが、岡山藩の繁栄につながると考え、郷土のために尽くした永忠の心情を考えさせたい。

◇板書例

閑谷学校への願い　－津田永忠－

写真（閑谷学校）

写真（津田永忠）

・庶民の学校
・津田永忠
・池田光政
・今から約三百年前

めあて
永忠は、どんな思いで閑谷学校をつくったのか考えよう。

光政に言われた時
・殿の願いをかなえたい。
・庶民にも学問をする場が必要だ。
・数百年たえられるりっぱな講堂をつくりたい。

廃校になりかけた時
・ここであきらめてはいけない。
・どのようにすれば、閑谷学校を守り通すことができるのだろうか。
・どんなことがあっても、この閑谷学校を完成させたい。
・岡山藩の人々の生活を豊かにしたい。

場面絵
講堂に座って、目を閉じている永忠の絵

光政の墓前で手を合わせた時
・ようやく完成することができて、うれしい。
・殿の願いは、永久に受けつがれるだろう。
・この閑谷学校でたくさんの人々に学んでほしい。

◇郷土のことを考え郷土の発展のためにつくそうとする気持ちが大切だ。

○地域（郷土）のことを考えて行動したこと

◇参考

津田永忠（1640～1707 年）。 池田光政・綱政と二代の藩主に仕え閑谷学校の経営、後楽園の造園などに力を注いだ。池田光政（1609～1682 年）。岡山藩主として新田の開発や教育政策などに力を注いだ。

3　ねらい

津田永忠がどのような思いで閑谷学校を建設したのかを考える中で、郷土のことを考え郷土の発展のために尽くそうとする気持ちが大切なことに気付き、地域の一員として主体的に地域のために活動していこうとする心情を育てる。

4　展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　閑谷学校の写真を見て話し合い、めあてをつかむ。	○　閑谷学校についてどんなことを知っていますか。 ・江戸時代に建てられた庶民のための学校。 ・日本遺産に認定されている。 ・講堂が国宝になっている。	・閑谷学校の写真を見せたり、閑谷学校やその時代について説明を加えたりすることで、閑谷学校への関心をもたせるようにする。
	永忠は、どんな思いで閑谷学校をつくったのか考えよう。	
2「閑谷学校への願い －津田永忠－」を読んで話し合う。	○　光政に「庶民のための学校をつくってくれないか。」と言われた永忠は、どんなことを考えたでしょう。 ・殿の願いをかなえたい。 ・庶民にも学問をする場が必要だ。 ・数百年たえられるりっぱな講堂をつくりたい。 ◎　講堂の床に正座し、静かに目を閉じた永忠はどんなことを考えたでしょう。 ・ここであきらめてはいけない。 ・どのようにすれば、閑谷学校を守り通すことができるのだろうか。 ・どんなことがあっても、この閑谷学校を完成させたい。 ・岡山藩の人々の生活を豊かにしたい。 ○　光政の墓前で手を合わせた永忠は、どんなことを思ったでしょう。 ・ようやく完成することができて、うれしい。 ・殿の願いは、永久に受けつがれるだろう。 ・この閑谷学校でたくさんの人に学んでほしい。	・教育の力で人々の生活を豊かにしたいという光政の願いや、数百年耐え得る庶民のための学校を建設することの意味を捉えさせるようにする。 ・ワークシートに書くことで、飢饉による財政難、光政公の逝去など、閑谷学校の存続が困難な状況に追い込まれたときの永忠の気持ちを多面的に考えさせる。 ・「それでも完成への努力を続けたのはどうしてか。」と問いかけ、郷土の発展のために尽くそうとする永忠の思いを捉えさせるようにする。 ・郷土の発展のために、苦労しながらも主体的に尽くしたあとの満足感を感じとることができるようにする。
	郷土のことを考え郷土の発展のためにつくそうとする気持ちが大切だ。	
3　地域のことを考えて行動したことについて振り返る。	○　地域（郷土）のことを考えて、何かしたことがありますか。 ・学区民運動会に参加していたが、地域のためという意識はなかった。 ・町内の掃除に参加したとき、地域がきれいになるようにと思って頑張った。	・自分と郷土の関わりについて振り返らせ、自分も地域の一員として、郷土の発展のために主体的に活動しようとする意欲を高めるようにする。
4　先生の話を聞く。	○　みなさんが住んでいる地域にも、郷土の発展に努めた人物がいますので、紹介します。	・教師の説話により、郷土の発展に努めていこうとする意欲を高める。
	自分も地域（郷土）のためにできることを考えて行動したいな。	
評価の観点	・郷土の人々の幸せや郷土の発展のために努力することの大切さに気付くことができたか。 ・地域の一員として郷土のために主体的に活動しようとする意欲を高めることができたか。	

5　他教科等との関連

社会科の歴史の学習の中で、地域に残る遺跡や文化財、地域の発展のために尽くした人物を調べる活動に発展させたり、総合的な学習の時間の地域学習の一環として、祭りや資源回収などの地域の行事に主体的に参加する活動につなげたりしていきたい。

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第６学年　**「種痘で人々の命を　－緒方洪庵－」**

１　関連的な道徳の学習のテーマ　つながりの中で守られる命

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、日々の暮らしと関連を図りながら「命プロジェクト」として学習を進めることで、自分の命を見つめ直して命のかけがえのなさを実感するとともに、命を守るために活動する人々の姿や自分の命を支えてくれるたくさんの人々の思いに触れることで、自分や他の人の命を守り、大切にして生きていこうとする態度を養う。

３　構想図（10月下旬～11月上旬）

【日々のくらし】　【道徳科】　【各教科等】　【児童の意識】

命プロジェクト

朝の会等　「命について考えよう」
「命」という言葉から浮かぶ言葉を連想し、命がたくさんの人や物とつながっていることを想起させる。
支援１

「命を見つめようプロジェクト」
自分の命を守ってくれる人や物事を記録する。
支援２

道徳科
主題名　人々の命を守るために
内容項目　D　生命の尊さ
教材名　「種痘で人々の命を　－緒方洪庵－」
ねらい　多くの人の命を守るために大切な思いについて考える中で、どのような状況にあっても命は救うべき努力をあきらめてはならない尊いものであることに気付き、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。
支援３

「命を守ろうプロジェクト」
自分や他の人々の命を大切に思って自分にできることを実践し、その時の気持ちを記録する。
支援４

帰りの会等　「命プロジェクトを振り返ろう」
これまでの取組を振り返り、命を大切に生きることについての自分の考えをまとめ、友達と話し合う。
支援５

【児童の意識】
- 命はたくさんの人や物とつながっているのだな。
- 自分の命はたくさんのつながりの中で守られているのだな。
- 自分の命は身近な人々以外からも守られているけど、多くの人々の命を守るためにどんな気持ちが大切なのかな。
- 命は尊いものであり、どのような時でも命も守るために努力することが大切なのだな。
- 命を大切に守るために自分にできることをしてみよう。
- やっぱり命を大切にして生きることは大切なんだな。
- 命は、様々なつながりの中で守られているから、これからも命を大切にして生きていきたいな。

４　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

朝の学習の時間などを使って、「命」という言葉から連想する言葉を黒板に書いてイメージを広げる活動を行うことで、命がたくさんの人や物と関係していることに気付き、価値に対する構えをもつことができるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

「命を見つめようプロジェクト」では、 日々の暮らしの中で、自分の命を守ってくれている人々や団体を見つけて記録することを通して、自分の命は家族や医者など色々な人から守られていることに気付くことができるようにする。そして、記録を振り返ることで、「身近な人以外にも自分の命を守ってくれている人がいるが、その人たちはどのような気持ちで守ってくれているのだろう」という課題意識へと高めることができるようにする。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、「命を見つめようプロジェクト」を振り返り、「多くの人の命を守るためにどのような気持ちが大切か考えよう」という課題を明確にすることで、本時の学習の見通しがもてるようにする。

展開前段では、中心場面として、主人公の緒方洪庵が、雨の日も風の日も町に出かけて天然痘の予防に努めていた時に思っていたことについて考えることで、命は尊いものであり、どのような時でも命を守るために努力することが大切であることに気付くことができるようにする。その際、種痘の大切さを誰にも理解されず、あきらめそうになった日もあったかもしれないが、あきらめなかった理由を問うことで、命を支えてくれている多くの人々の行為と重ね合わせながら、どのような状況になっても、命は守らなければならない尊いものであることに気付くことができるようにする。

展開後段では、命を守るために自分自身が意識していることについて振り返ることで、自他の生命を大切にして生きる意欲につなぐことができるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で捉えた「これからも自分や他の人の命を大切にしながら生きていきたい。」という思いから、日々の暮らしの中で「命を守ろうプロジェクト」を行うことで、自分や他の人の命を大切に思って行動したこととその感想を記録する。この活動を通して、どのような状況にあっても自分や他の人の生命を大切に守ろうとする心情を育てることができるようにする。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

これまでの学習で記録してきたことを見直し、命を大切にして生きることについて自分の思いや考えがどのように変容したのかについて振り返りを書き、話し合うことで、自他の命がたくさんの人々の支えによって生かされていることに気付き、全ての命を大切にしようとする思いをより一層強くもたせることができるようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　人々の命を守るために

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心とする内容項目は、D　生命の尊さ「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。」である。普段の暮らしの中で命の尊さについて意識することは少ない。そこで、命の重さやかけがえのなさを感じたり、命を大切にするということを真剣に考えたりすることが大切である。この時期には、自分は多くの人々に守られて生きていることに気付き、自分の命だけでなく、他の生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さを感じることができるようにしていきたい。

②児童の実態について

関連的な道徳の学習の中で、日々の暮らし「命について考えよう」を通して、命がたくさんの人々や物とつながっていることに気付き、さらに、「命を見つめようプロジェクト」を通して、自分の命が親や身近に接する人々などたくさんの人々から守られていることを実感しており、命は大切にしなければならないと思っている。しかし、親や身近に接する人々以外の人々が他人である自分たちの命を守ろうとどのような気持ちで活動しているのかについてはあまり意識していない。

そこで、人々の命を守ろうとする時の大切な気持ちについて考えることを通して、命はかけがえのないものであり、何よりも尊重していこうとする心情を育てたい。

③教材について

本教材は、江戸時代後期に、当時外国から伝わったばかりの種痘によって、天然痘で苦しむ多くの人々の命を守った緒方洪庵の話である。

天然痘という感染症や当時の時代背景を押さえた上で、「種痘」の大切さを説いて回る場面に焦点を当て、洪庵の行動は富や名声のためでなく、純粋に人々の生命を守りたいという願いに支えられていたことに気付いていけるようにする。また、足守の位置を地図で確認し、また偉業をたたえて石碑が建っていること、今でも「洪庵まつり」が行われていることなどに触れ、親近感をもつことができるようにしていきたい。

◇板書例

命を見つめようプロジェクト
・身近な人に支えられている。
・直接関わりのない人からも守られている。

めあて
多くの人の命を守るためにどのような気持ちが大切か考えよう。

種痘で人々の命を　―緒方洪庵―

洪庵の写真

足守の位置や石碑の写真

白翁先生に頼んだ時
・どうしても命を救いたい。
・多くの人の命がかかっている。

雨の日も風の日も町に出かけた時

場面絵

・なんでみんな分かってくれないのだろう。
・みんなに正しいことを知らせて、命を早く救いたい。
・どの命も守るべき大切なものだ。

◇命はかけがえのないものであり、どのような時でも守らなければならない大切なもの。

○命を守るために

◇参考

緒方洪庵（1810～1863 年）。江戸時代の終わりごろに活躍した蘭学者。岡山市の足守出身で、長崎で医学を学び、大阪で医師を開業。大阪に「適塾」を開いて、医者を目指す人々の教育を行った。

(3) ねらい

多くの人の命を守るために大切な思いについて考える中で、どのような状況にあっても命は救うべき努力をあきらめてはならない尊いものであることに気付き、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。

(4) 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　命が守られていることを振り返り、めあてをつかむ。	○　「命を見つめようプロジェクト」をしてみてどう思いましたか。 ・自分の命は身近な人々に支えられている。 ・自分と直接関わりのないたくさんの人々から支えられているな。	・「命を見つめようプロジェクト」を振り返ることで、多くの命を守るときの大切な気持ちは何だろうという課題意識へと高めていけるようにする。
多くの人の命を守るためにどのような気持ちが大切か考えよう。		
2　「種痘で人々の命を　－緒方洪庵－」を読んで話し合う。	○　天然痘で苦しんでいる子どもを見た時の洪庵はどんな気持ちだったでしょう。 ・何もできなくて悔しい。 ・早く助けたい。 ◎　雨の日も風の日も町に出かけた時、洪庵はどんなことを思っていたのでしょう。 ・種痘をすることは無理かもしれない。 ・なんでみんな分かってくれないのだろう。 ・みんなに正しいことを知ってもらいたい。 ・一人でも多くの命を救いたい。 ・どの命も大切だから、何としても救いたい。 ○　一日一日と種痘を受ける人が増えた時の洪庵はどんな気持ちだったでしょう。 ・信じてくれてうれしい。 ・命を救うことができてよかった。	・めあてを確認した後、教材の脚注を参考にして時代背景や天然痘という病気や種痘のしくみについて解説する。 ・ワークシートに考えを書くことで、多面的に考えられるようにする。 ・「あきらめようと思った日もあったかもしれないけど、どうして洪庵はあきらめなかったのか。」と発問することで、全ての命は尊いものであり、どんな状況になっても守らなければならない大切さを感じ取ることができるようにする。 ・種痘を受ける人々が増えた時の気持ちを確かめることで、人々の命を救うことができた喜びや達成感に気付くことができるようにする。
命はかけがえのないものであり、どのような時でも守らなければならない大切なものだという気持ちをもつことが大切だ。		
3　命を大切に思ってきたかについて振り返る。 4　教師の説話を聞く。	○　どんな時でも命は守らなければならない大切なものだと思ったことはありますか。 ・災害に遭われた方のために自分にできることはないかと考えた。 ○　命を守るために一生懸命活動している人について話をします。	・命はかけがえのない大切なものだと思ったことを話し合うことで、日々の生活の中で命を守ろうとする意欲を高めることができるようにする。 ・命を守るための活動について話をすることで本時のまとめとする。
これからも自分や他の人の命を大切にしながら生きていきたい。		
評価の観点	・命はかけがえのないものであり、どのような状況にあっても何よりも救う努力をあきらめてはならない尊いものであることに気付くことができたか。 ・これからも自分や他の人の命を大切にして生きていこうとする意欲を高めることができたか。	

作成委員

大野　光二	環太平洋大学
鳥越　小百合	ノートルダム清心女子大学
菅　京子	就実大学
重松　恵子	岡山市立御休小学校
深井　守	赤磐市立笹岡小学校
岩藤　一成	岡山市立鹿田小学校
松原　雅恵	岡山市立彦崎小学校
澁谷　大志	岡山市立灘崎小学校
伊住　継行	倉敷市立倉敷東小学校
山本　純平	倉敷市立琴浦西小学校
杉田　由加里	高梁市立巨瀬小学校
有元　淳一	備前市立吉永小学校
加藤　洋平	赤磐市立山陽小学校
山本　輝美	美作市立勝田小学校
尾崎　正美	岡山大学教育学部附属小学校

（所属は平成二十八年度）

作成協力者

板野　敦子（※1）

岡山県小学校道徳教育研究会（※2）

※1「ほんみちをかえろう―犬養毅―」「文化の発展のために―大原孫三郎―」「鏡獅子―平櫛田中―」「閑谷学校への願い―津田永忠―」（著書「心の花」に収録）

※2「れんげまつりだいすき」「てんまでのびろ―良寛―」「町のたからもの金ボタル」「ほんみちをかえろう―犬養毅―」「まつりまでには―宮本武蔵―」「わたしたちの後楽園」「がんばれカブトガニ」「閑谷学校への願い―津田永忠―」「種痘で人の命を―緒方洪庵―」（「岡山県版道徳」に収録）